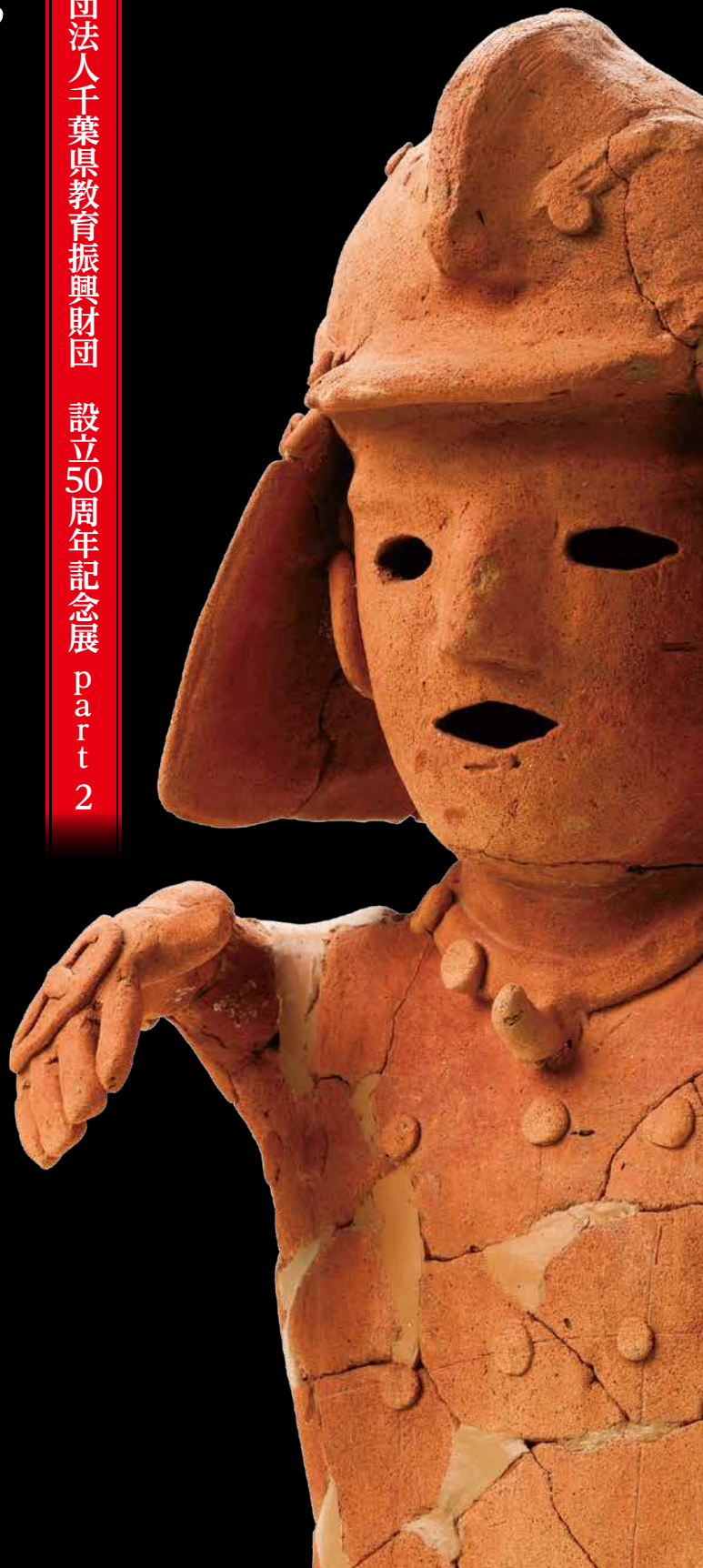


公益財団法人千葉県教育振興財団

設立50周年記念展 part 2

地中からのメッセージ

——古墳・古代・中近世——

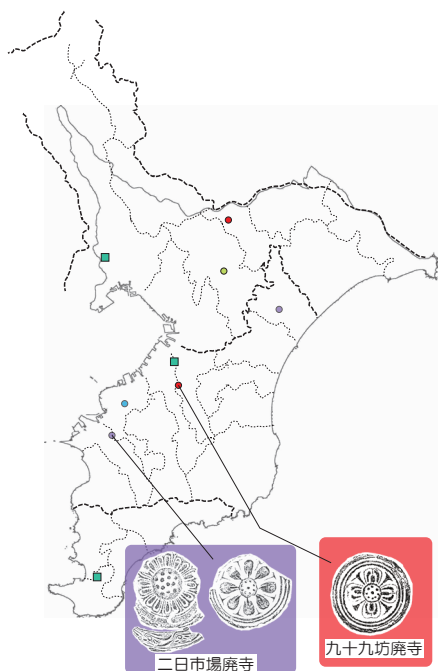


令和7年度「地中からのメッセージー古墳・古代・中近世ー」展示図録

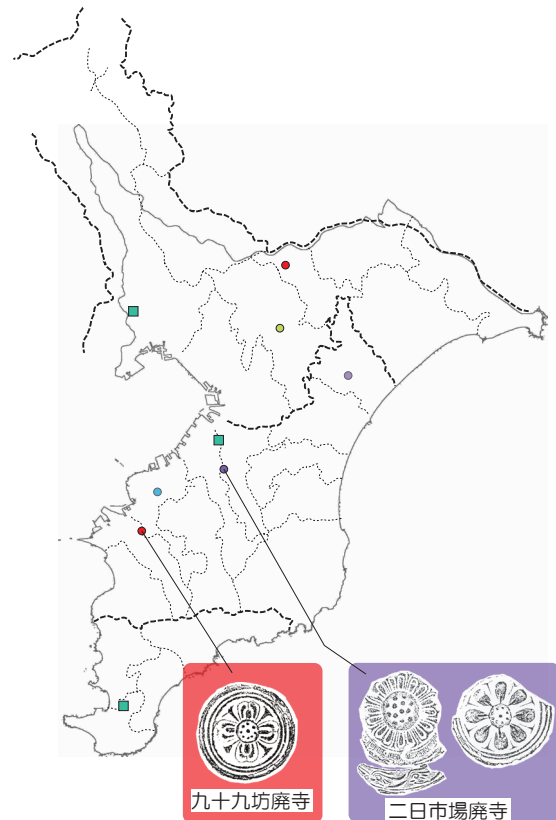
正誤表

		誤	正
P4	4行目	栄町 上福田13号墳	成田市 上福田13号墳
P23	5_46キャプション	白幡前遺跡 D189出土墨書土器	白幡前遺跡 D258 出土墨書土器
	8行目	白幡前 遺跡D189	権現後 遺跡D189
	9行目	村上郷	村神郷

P16
誤



正



ごあいさつ

公益財団法人千葉県教育振興財団は、急増した国・県の大規模開発事業に伴う発掘調査に対応するために、千葉県の出資により、千葉県内における遺跡等埋蔵文化財の調査研究及び県民の文化財保護思想の涵養と普及等を図るとともに、開発と環境整備の調和を図り、県民生活の向上と地域文化の充実に寄与することを目的として、昭和49年11月1日に、財団法人千葉県文化財センターとして設立されました。

その後、平成17年に財団法人千葉県教育振興財団に名称変更し、平成18年には、文化財事業のほかに社会教育事業及びスポーツ関連事業を開始しました。平成24年には公益財団法人となり、千葉県における教育・文化及びスポーツの振興を図ることにより、県民の生涯を通じた学習活動等への参加を促進し、健やかで心ゆたかな県民生活の実現に寄与することを目的としています。

このたび、設立からこれまで積み重ねた発掘調査の実績と考古学上の成果を総括し、財団が将来にわたって公益に資する事業を継続していくことを目的として、昨年度より設立50周年記念展を実施しており、今年度は2年目となります。

この展示会を通して、広く一般県民の埋蔵文化財に対する理解と認識を深めるとともに、50周年を迎えた当財団の活動にご支援、ご高配賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご協力をいただきました関係機関並びに関係者の皆様に、心からお礼申し上げます。

凡例

1. 本図録は、令和7年度出土遺物公開事業「地中からのメッセージ ～古墳・古代・中近世～」－公益財団法人千葉県教育振興財団設立50周年記念展 part2－の展示解説図録です。
2. 本展示は、文化財センター長 木原高弘・調査第二課長 當眞嗣史の指導のもと、主任上席文化財主事 上守秀明、上席文化財主事 片山祐介、文化財主事 伊藤弘一が担当しました。
3. 図録の執筆・編集は、古墳時代を片山、古代を當眞・片山・伊藤、中近世を津田・片山が担当しました。また、古墳時代・古代は栗田則久、中近世は津田芳男の協力を得ました。
4. 展示資料一覧には、時代、展示番号、遺跡名、資料名を記載しました。
5. 遺跡名は、報告書に記載されている名称を使用しました。
6. 開催館によっては、展示資料一覧に記載した資料の一部が展示されていない場合があります。
7. 本書掲載の図版の提供や出典等については、巻末に記載しました。
8. 本展示の企画・開催、資料借用ならびに本書の編集にあたり、千葉県教育委員会をはじめ、関係諸機関、関係者の御指導、御協力を賜りました。ここに御芳名を記して、深く感謝の意を表します。

【機関】

国立歴史民俗博物館・千葉県教育委員会・千葉県立中央博物館・千葉県立房総のむら風土記の丘資料館・市川市教育委員会・市川市立考古博物館・市原市教育委員会・市原市立市原歴史博物館・印西市教育委員会・印西市立木下交流の杜歴史資料センター・印西市立印旛歴史民俗資料館・柏市教育委員会・木更津市教育委員会・木更津市郷土博物館金のすず・山武市教育委員会・山武市歴史民俗資料館・酒々井町教育委員会・芝山町教育委員会・芝山町立芝山古墳・はにわ博物館・袖ヶ浦市教育委員会・袖ヶ浦市郷土博物館・八千代市教育委員会・八千代市立郷土博物館

【個人（敬称略）】

五十嵐儀齊・稲葉理恵・太田歩・勝田雄大・隈元道厚・倉田龍太郎・小出麻友美・齊藤礼司郎・酒巻忠史・白井久美子・能勢幸枝・高田貫太・田中芙由子・谷口友季・常松成人・鶴岡英一・寺原進・伝田郁夫・長野友洋・中川由莉・中村一郎・萩原恭一・林紀男・広瀬千絵・山本美喜

古墳時代

はじめに



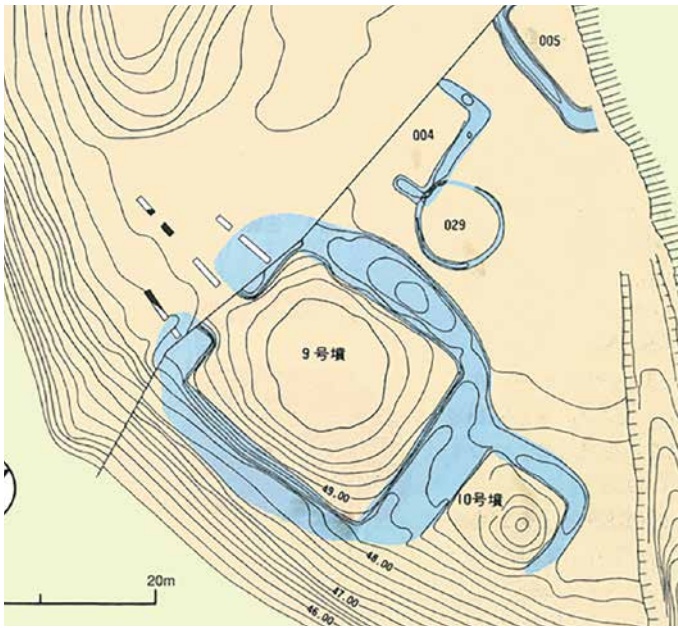
4_1 人形塚古墳築造計画線

弥生時代に続く時代が、古墳時代です。古墳時代は、前方後円墳に代表される大きな墳丘をもつ古墳が築かれたことを特徴とし、出現期（3世紀頃）・前期（3世紀後半～4世紀頃）・中期（5世紀頃）・後期（6世紀頃）・終末期（7世紀頃）に分けられます。

房総で最古級の古墳は、^{まきむく}纏向型前方後円墳の市原市^{ごうど}神門5号墳（県指定史跡）、前方後方墳の木更津市^{たかべ}高部古墳30・32号墳などが該当し、年代は3世紀前半頃と考えられています。古墳には埴輪が立てられましたが、房総では中期以降の古墳で見ることができます。太平洋側の山武地域の古墳で、国の重要文化財に指定された芝山町^{とのづか}殿塚古墳・^{ひめづか}姫塚古墳は有名です。終末期には、この時期日本最大の一辺80mの規模を誇る方墳である栄町^{いわ}岩屋古墳（国指定史跡）が築かれました。

古墳時代は、朝鮮半島との交流が盛んな時代でした。須恵器、馬の飼育、住居のカマドなど新しい技術が流入し、急速に列島内に広まっていきました。房総でも上総を中心に朝鮮半島系の文物が多くみられ、木更津市^{きんれい}金鈴塚古墳出土遺物や栄町^{せんげんやま}浅間山古墳などはその代表的な例です。下総・常陸にまたがる常総^{じょうそう}地域独自に発展した文化として、古墳の埋葬施設から出土する常総型石枕があげられます。県内では産出しない滑石を使用する石枕と石製模造品製作工房跡が、^{かどりのうみ}香取海南岸（現在の利根川南岸域）を中心に全国で最も多く見つかっています。

出現期・前期の古墳



4_2 滝ノ口向台9号墳



4_3 滝ノ口向台9号墳出土土器群



4_4 新皇塚古墳粘土槨
(左が南槨、右が北槨)



4_5 新皇塚古墳遺物出土状況
(上：南槨、下：北槨)

弥生時代終わり頃に、それまでの方形周溝墓とは隔絶した規模の墳丘墓が、各地で築かれ始めます。形状は、山陰から北陸は四隅突出型墳丘墓、大和盆地では纏向型墳丘墓、東日本では突出部を持つ方墳など地域によって様々です。市原市神門古墳群は、全国的に見ても古い時期の前方後円形墳丘墓です。袖ヶ浦市滝ノ口向台9号墳もこの時期に該当します。墳形は突出部をもつ方墳で、周溝を含めた規模は29mあります。遺物のほとんどは周溝から出土しました。

3世紀後半に入ると、畿内では箸墓古墳（全長280m）などの大形前方後円墳が築かれるようになりますが、東日本では100mを超えるような規模の古墳は前方後方墳です。市原市新皇塚古墳（推定一辺60m）は前期古墳でもやや時期が新しいものですが、長大な粘土槨をもち、管玉・勾玉・石釧などの玉類、斧・刀子・鎌といった鉄製農工具、内行花文鏡、鉄剣などの副葬品が未盗掘の状態で発掘された貴重な古墳です。



4_6 新皇塚古墳出土遺物（左：南槨玉類、右上：南槨石釧・北槨内行花文鏡、右下：南槨鉄製斧・鎌・刀子）

中期の古墳



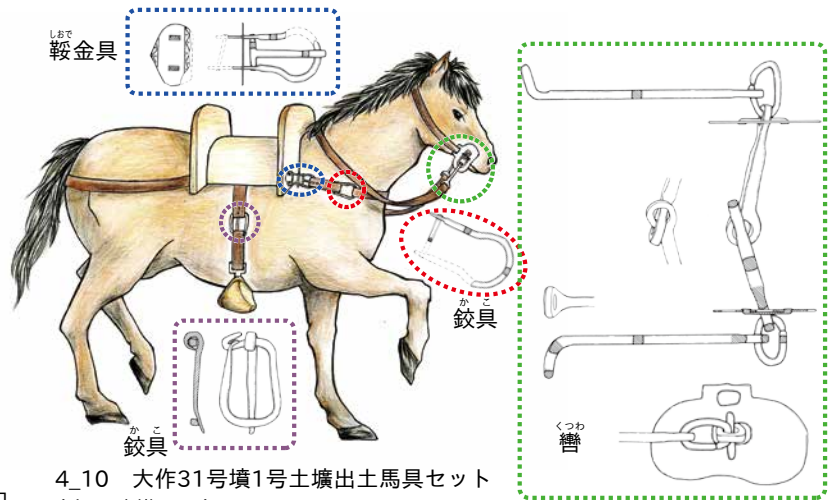
4_7 草刈1号墳 (実測図は第2主体部出土鉄鋸)



4_8 草刈3号墳出土脚付舟形須恵器 (舟の線刻あり)



4_9 大作31号墳1号土壙馬歯・馬具出土状況



4_10 大作31号墳1号土壙出土馬具セット (中田歌織 画)

中期には大阪・奈良など畿内を中心に巨大な前方後円墳が築かれ、房総でも前方後円墳がつくられました。この時代には、朝鮮半島から馬の飼育や須恵器をはじめとする新しい技術、進んだ鍛冶の技術などが伝来し、急速に全国に広まりました。

市原市草刈1号墳からは、渡来系技術者が製作したとみられる鉄鋸や鉄鋌などが副葬されています。佐倉市大作31号墳では、周溝の一部から馬の骨と鉄製の馬具一式が出土しました。馬の殉葬とみられ、大陸から伝わった馬の飼育と風習が房総にも伝来していたことがわかります。

房総の中期古墳の特徴として、常総型石枕があります。石枕は茨城県・千葉県にまたがる香取海周辺を中心に多く出土しています。滑石など加工しやすい石で枕が作られ、古墳に埋納されました。千葉市東寺山石神2号墳では、1つの埋葬施設に2つの石枕が納められていました。石枕には縁辺近くに小さな穴が明けられ、立花と呼ばれる勾玉2つを背中合わせにした形の石製品が立てられました。立花は、出土時には石枕から外されて周囲に散在していました。立花の一部にネズミがかじった痕跡があることから、古墳に埋葬される前の殯といわれる葬送儀礼の中では立花は石枕に立てられ、埋葬時に外されたと考えられています。



4_11 石神2号墳出土石枕 (立花装着)



4_12 ネズミのかじり跡がある立花

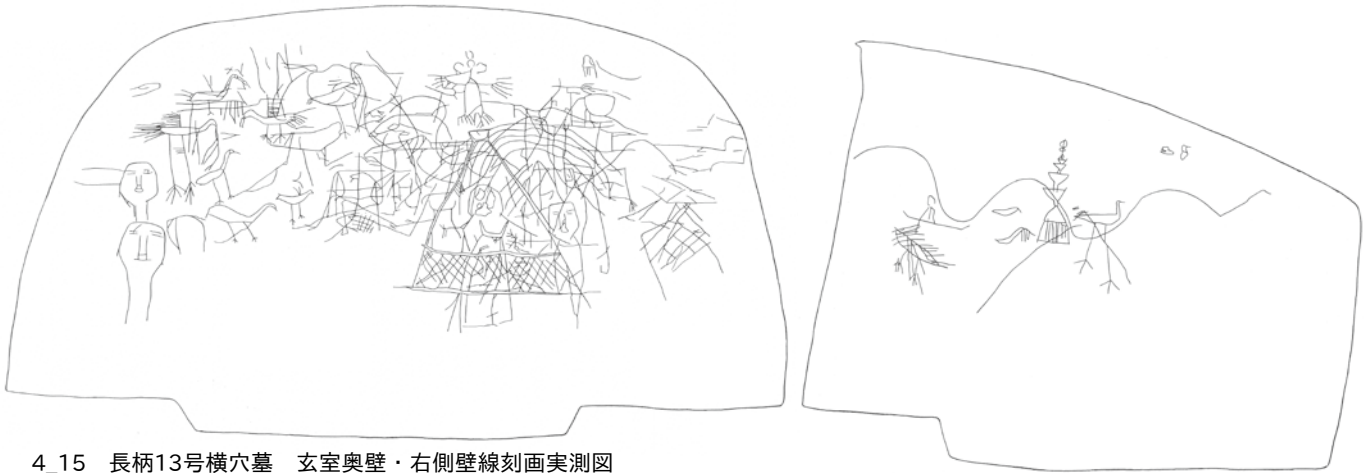


4_13 石神2号墳埋葬施設



4_14 遺物出土状況

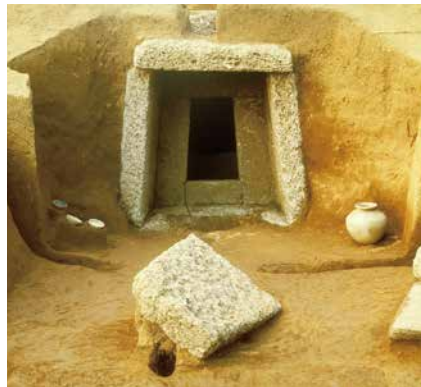
後期・終末期の古墳



4_15 長柄13号横穴墓 玄室奥壁・右側壁線刻画実測図



4_16 上福田13号墳全景



4_17 上福田13号墳前庭遺物出土状況



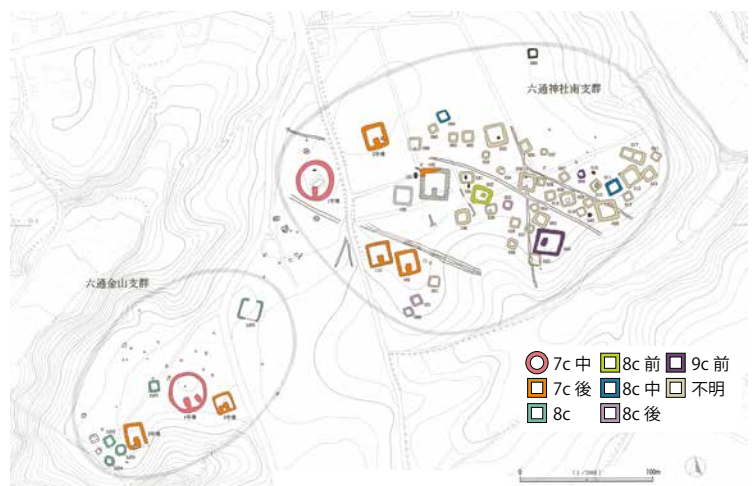
4_18 上福田13号墳玄室奥壁

後期になると大形の前方後円墳が減少して、群集墳や横穴墓群が築かれるようになります。また遺骸を納める埋葬施設は、追葬が可能な横穴式石室や石棺となります。栄町上福田13号墳は、石室の入口に須恵器が立て並べた状態で出土しており、葬送儀礼に伴うものと考えられています。また横穴式石室を構築するには多数の大形石材が必要となりますが、下総では入手が難しいためか、石室には貝化石を含む木下貝層の砂岩や香取海対岸の茨城県南部でとれる筑波石などが使用されています。

横穴墓群は安房から上総地域を中心に多く見

られ、茂原市周辺では遺骸を安置する棺台が入口よりも高く作られる「高壇式横穴」と呼ばれる横穴墓が多く分布しています。長柄町長柄横穴墓群徳増支群13号横穴墓(国指定史跡)では、奥壁を中心に線刻画が描かれています。

大化の薄葬令(646年)以後はほとんど古墳が作られなくなりますが、房総では印波国造の奥城と考えられている龍角寺古墳群など、7世紀でも規模の大きい古墳が築かれたほか、千葉市六通神社南遺跡では9世紀の平安時代まで方形墳墓が存続しています。



4_19 六通神社南遺跡円形・方形周溝墓群

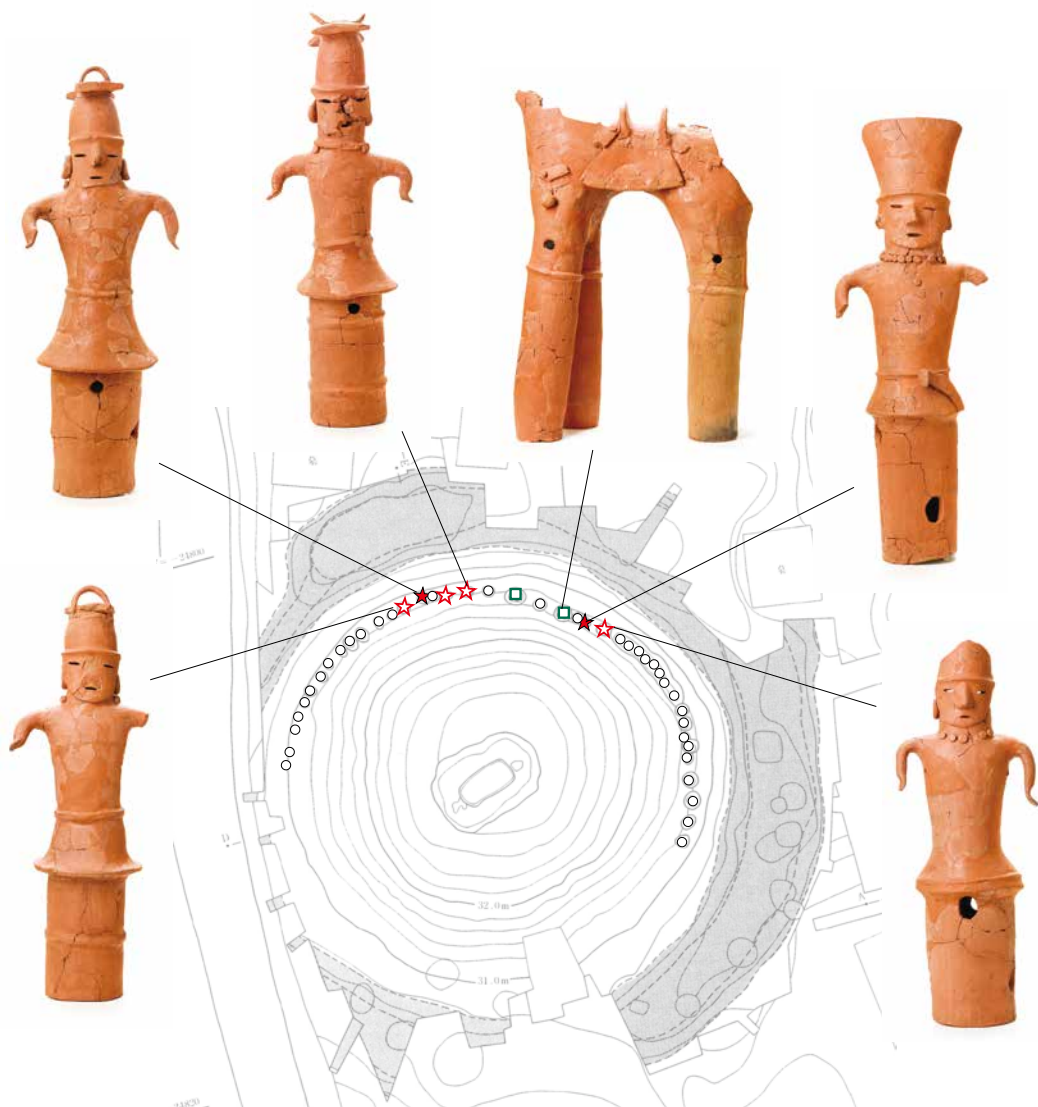
下総型埴輪

房総の埴輪は、主に後期の古墳を中心に並べられました。埴輪のほとんどは筒形をした円筒埴輪、または上部が大きくラップ状に開く朝顔形埴輪ですが、人物、馬、鳥、家などを象った形象埴輪も作られました。

房総の埴輪には、大きく分けて下総型と山武型があります。このほかに、市原市山倉1号墳では、埼玉県鴻巣市の生田塚遺跡の埴輪窯で焼かれたとみられる埴輪も出土しています。

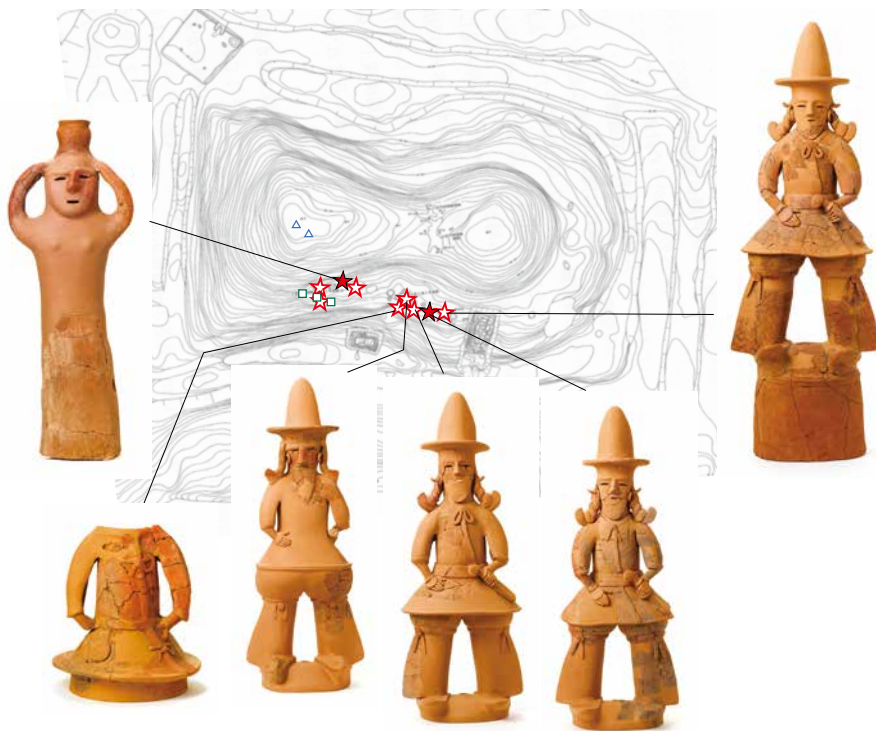
下総型埴輪は顔や体の作りが簡略で、脚の表現はされず腕は小さく作られているのが特徴です。印西市大木台2号墳では、埴輪は墳丘裾の北側に並べられていました。円筒埴輪列の中に含まれる形で、女性埴輪が5と男性埴輪1と馬形埴輪2が並んで出土しました。男性は帽子をかぶって腰から刀を下げ、女性は結髪が表現されています。扁平で小さな腕、平面的な顔、脚が表現されていないことなど、いずれも下総型埴輪の特徴を示しています。

簡略な表現とはいえ、顔の横には耳飾が表現されており、女性の髪形は島田髷のような当時の特徴をよく表しています。馬形埴輪は首と尻が失われています。胴と足がほっそりしており、鞍に取り付けられた障泥は小さく作られています。けれども、胸繫から下げられた鈴（または鈴付杏葉）や、鞍に取り付けられた障泥の縁辺に打たれた鋳、欠損しているものの鎧が表現されているなど具体的で細かい描写です。

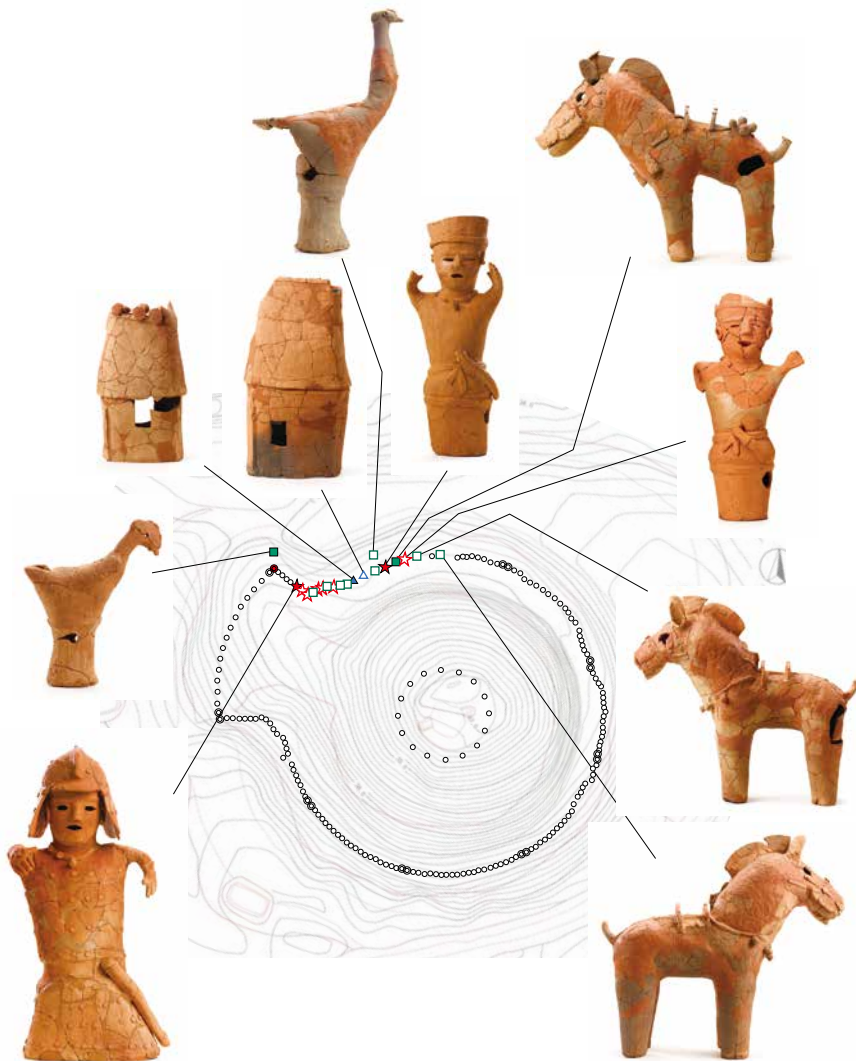


4_20 大木台2号墳埴輪配列
(写真は中村一郎氏撮影)

山武型埴輪



4_21 人形塚古墳埴輪配列（推定）



4_22 小川崎台3号墳埴輪配列

山武型埴輪は立体的につくられ、男性は帽子と髭、二本の足まで表現されていることが特徴です。また、馬形埴輪も、馬具やたてがみなどの表現が細部までリアルに表現されています。

千葉市人形塚古墳では、古墳を築造する際の計画線とみられる溝が検出されました（図版4_1）。くびれ部は左右非対称で、南側のくびれ部には空間が設けられ、そこに山武地域とのつながりを示す正装男性4、腰に鏡を下げた巫女1、壺を頭に乘せた女性1、馬3、馬子とみられる男性2が並べられていました。正装した男性はいずれも帽子をかぶって大きな美豆良を下げ、顔は入墨とみられる赤彩が施されています。また、4体の顔の表情や特徴がそれぞれ異なります。対して女性の表現は簡略です。

山武市小川崎台3号墳は、帆立貝型古墳の裾に円筒埴輪と朝顔形埴輪が並べられ、北側くびれ部付近に武人1、家2、馬子とみられる男性2と馬3、さらに列の外側には鶏と水鳥各1がおかれていました。小川崎台3号墳の人物埴輪は顔の表情も豊かで、武人の甲冑は丁寧に作られ二本足も表現されています（武人埴輪の展示は上半身のみ）。3体の馬形埴輪は、それぞれ異なる馬具が表現されています。



4_23 小川崎台3号墳馬形埴輪1
（写真は中村一郎氏撮影）

工房 1 — 鍛冶 —



4_24 沖塚遺跡鍛冶遺構



4_25 鍛冶遺構鍛冶炉

古墳時代になると、日本列島各地で本格的な鉄器の生産が始まります。とくに、炭素含有量が多く鋭い刃物になる鋼を加工する鍛冶の技術が広まりました。

房総では、八千代市沖塚遺跡から古墳時代初頭とみられる土器とともに鍛冶炉が検出されており、遅くとも4世紀には鍛冶の技術が伝来していたことがわかります。鍛冶炉は住居の中央よりやや入口寄りに作られ、厚く山砂が貼られています。遺構からは、鍛冶の際に出る椀形滓わんがたさいと鍛造剥片たんぞうはくぺんが多量に出土していますが、鉄素材や製品は出土しませんでした。鍛冶関連遺物を分析した結果、チタンが多量に含まれていることがわかりました。原料の由来は不明ですが、遺跡の周辺で採取された可能性も考えられています。

古墳時代に見つかる鍛冶遺構では、鍛冶炉のほか、羽口に転用した高杯の脚や、台石などが見つかることがあります。

当時鉄素材は、鉄錠てつていという鉄の延べ板で朝鮮半島から輸入されていたと考えられています。出土している鉄錠のほとんどは古墳の副葬品として納められたものですが、千葉市南二重堀遺跡みなみふたえぼりでは、中期の竪穴住居跡から出土しています。



4_26 鍛冶遺構出土土器・椀形滓



4_27 南二重堀遺跡出土鉄錠



4_28 鎌取遺跡出土 高杯脚部転用羽口

工房2 一玉作一

房総における中期以降の古墳の特徴として、滑石^{かつせき}と呼ばれる柔らかい石を加工して作られた刀子^{とうす}（ナイフ）・斧・鎌などの農工具などを模した石製模造品の埋納^{うすだま}があげられます。また住居跡からは、剣形、ビーズ状の白玉、鏡を模した有孔円板^{ゆうこうえんばん}など、古墳出土品とは異なる石製模造品が出土しており、房総は全国で有数の石製模造品が出土する一大消費地でした。それらを生産する玉作工房^{たまつくり}も多く見つかり、確認された工房の数も全国一を誇ります。その一方で、生産工房が集中する下総では、原料となる滑石が産出しません。埼玉県秩父地方などから河川を利用して搬入されたと考えられています。

成田市八代玉作遺跡^{やつしろたまつくり}（県指定史跡）では、前期の遺構から緑色凝灰岩^{りょくしよくぎょうかいがん}を荒割りして徐々に管玉に加工してゆく工程がわかる例が見つかり、「八代・大和田技法」と呼称されています。中期の多古町五反田清水沢遺跡^{こたんだしみずさわ}の工房からは、白玉の製作工程がわかる資料が見つかりました。



4_29 上赤塚1号墳出土石枕（立花装着）



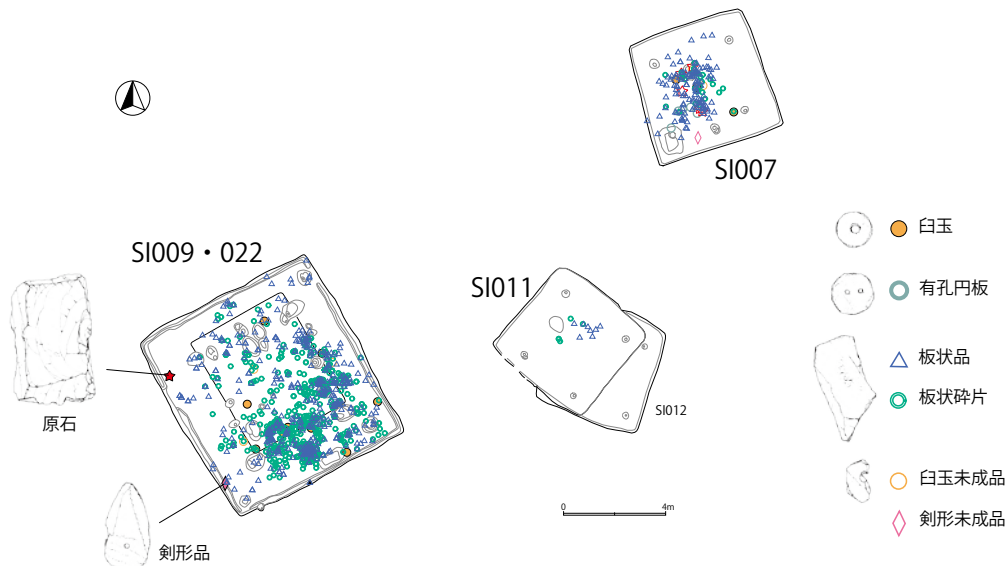
4_30 上赤塚1号墳出土石製模造品（斧・刀子・鎌）



4_31 八代玉作遺跡 工房出土状況



4_32 八代玉作遺跡出土 八代・大和田技法がわかる資料



4_33 五反田清水沢遺跡 玉作工房

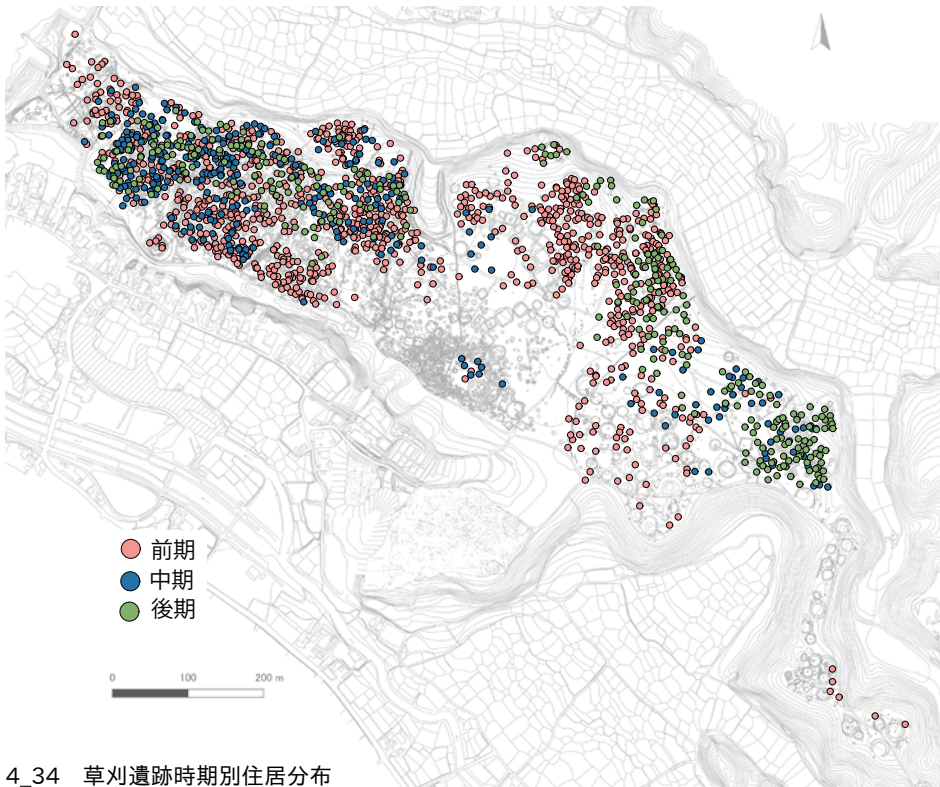
古墳時代の集落

古墳時代の集落には、弥生時代から継続・発展してゆくものがあります。市原市草刈遺跡は、古墳を含む墓域を伴う大規模集落で、弥生時代後期から古代まで存続したことがわかっています。前期・中期・後期で集落の展開範囲が若干異なり、前期には遺跡全体に展開していた集落が、中期・後期には中央の墓域を境にして、東西に分かれるようになります。前期には東海地方を中心に、他地域からの影響を強く受けた土師器が使われるようになります。

流山市市野谷宮尻遺跡の前期住居から「久」と読める東

日本最古の墨書土器が出土しており、東海地方から移住してきた集団とともに文字が入ってきた可能性が考えられています。

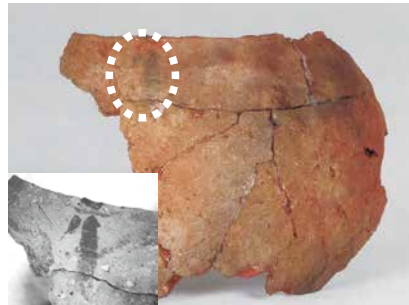
古墳時代には、家屋の火処が大きく変化しました。前期までは縄文時代以来の炉が設けられていますが、中期に入ると大陸からカマドが伝わり、その後はカマド主体となります。我孫子市日秀西遺跡では、カマドに関わる祭祀とみられる土製の鋤先やミニチュア土器、のし餅形土製品が出土しています。



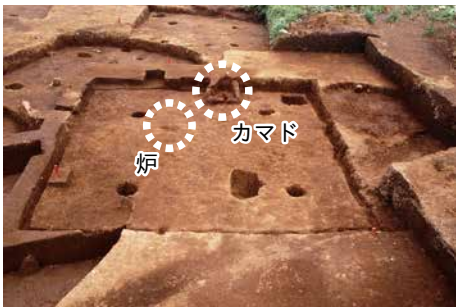
4_34 草刈遺跡時期別住居分布



4_35 前期の住居（炉）市野谷宮尻遺跡 SI027



4_36 SI027出土墨書土器「久」
(下は赤外線写真)



4_37 中期の住居（炉・カマド併設）
草刈遺跡J100



4_38 J100カマド



4_39 後期の住居（カマド）日秀西遺跡041B



4_40 041B出土土製鋤先



4_41 041B出土のし餅形土製品

古墳から古代へー土器編年 1ー

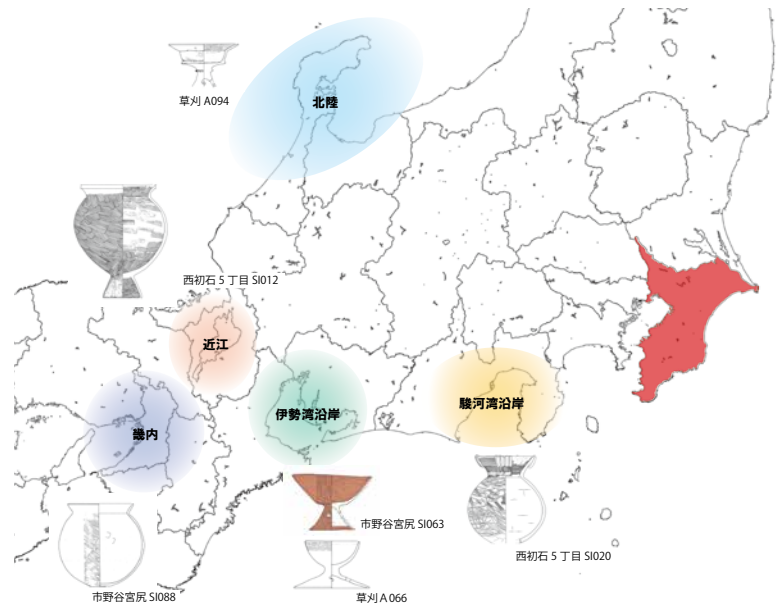
考古学では、出土資料を古い順に並べた編年を作成し、それをもとに年代を推定します。中でも多量に出土する土器が、遺構・遺物の年代の基準とされます。

古墳時代の土器は、大きく3つの段階で区分できます。前期は弥生時代から続く在地の系譜を引くもの他に、東海地方を中心とした他地域の土器系統が流入しています。

中期になると地域差が大幅に減少し、全国的にほぼ同じ器形に統一されてきます。中央がやや太く膨らむ長脚の高杯や、古代を通して普遍的に出土する個人食器の「杯」が登場するようになります。また、この時期には朝鮮半島から登窯を用いて還元炎焼成で焼かれた須恵器が伝わります。草刈六之台遺跡では赤焼けの須恵器が出土しており、須恵器を製作する技術で作られたものと考えられています。またこの段階では、須恵器は畿内や東海地方からの搬入品です。

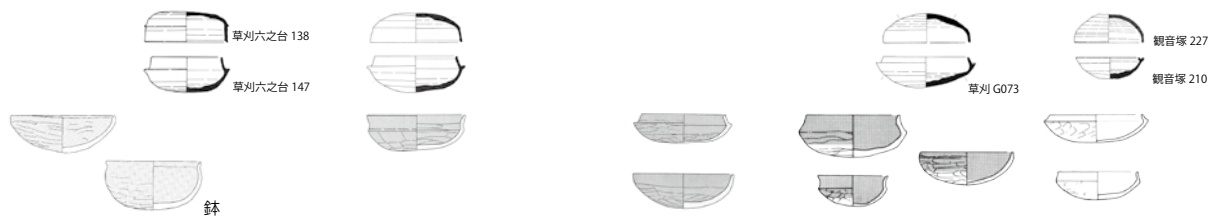
後期にはカマドの普及に伴ってコメを蒸すための長胴甕と甑が広まります。須恵器の杯は径が大きく扁平となり、全体的にシャープさがなくなって蓋受けの立ち上がりが小さく内傾するようになります。

最終末の段階では須恵器の杯と蓋は小型化・球体化します。土師器の杯は大形品と小形品が作り分けられ、扁平になります。

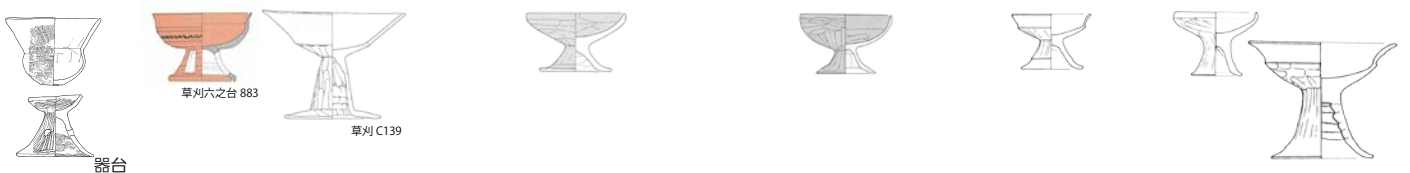


4_42 古墳時代前期の土器系統

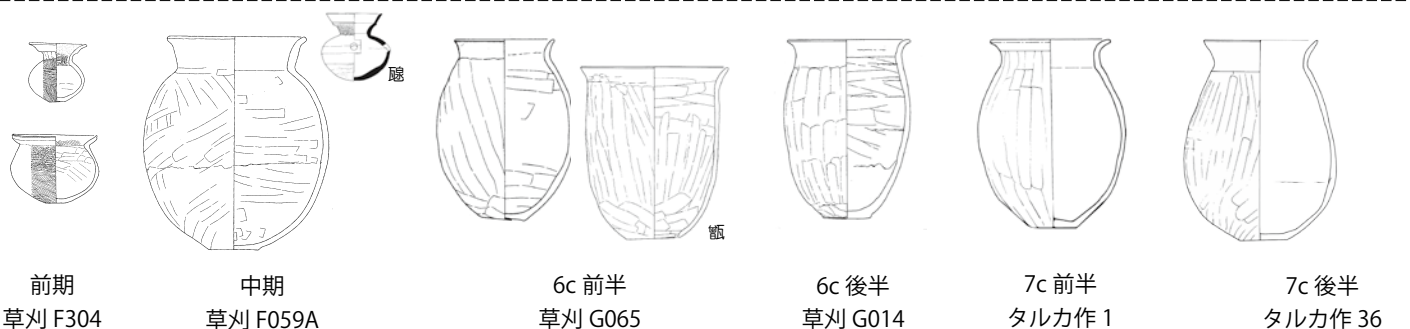
蓋・杯



高杯



壺・甕



4_43 古墳時代の土器

古代（奈良・平安時代）



5_1 日秀西遺跡（相馬郡衛正倉群 左上復元図 笹生衛 画）

古代は、奈良・平安時代が対象です。この時代は、中央集権国家体制（律令体制）が確立しました。土地や人を国が掌握（公地公民）し、統一的な税制を実施しました。また、仏教によって国を護る（鎮護国家）という方針のもと、地方に国分寺・国分尼寺が造られます。奈良時代の中頃には、早くも律令体制が崩れていき、有力貴族や寺院、地方の有力者が私有地を拡大し荘園が拡大していきます。

千葉県内では、八千代市村上込の内遺跡（ムラ）や我孫子市日秀西遺跡（郡家正倉、県指定史跡）の調査などによって、当時の人々の生活の一端が明らかになりました。また、千葉県は全国最多の墨書土器の出土量があり、特に八千代市から多く出土しています。

律令体制のもと農民に水田（口分田）を均等に分割支給するために、水田を区画した条里制が導入されます。現在まで遺存している市原市市原条里制遺跡の調査では、8世紀から11世紀にかけての水田面が見つかっています。

この時代には、官主導で市原市永田・不入窯や市川北下瓦窯（国指定史跡）などが造られました。この時代に造られた窯の多くは、寺院で使用される瓦や杯・盤・高盤などの須恵器を生産しました。また、人里離れた谷間に大規模な製鉄工場も造成されます。

奈良時代になると古墳時代とは異なる新しい墓制が登場します。仏教の広まりと同時に、火葬の風習が広がり、多種多様な骨壺（骨蔵器）が使用されます。

古墳から古代へー土器編年2ー

古代になると、蓋・杯の器形が大きく変わります。7世紀終わりに
は小型で丸かった須恵器の蓋は、奈良時代に入ると金属製の鉢を模し
た扁平なものになり、頂部に宝珠形かなまりのつまみが付くようになります。
須恵器の杯は断面が箱形になりますが、時代が下ると口縁がラッパ状
に開いて底径が小さくなります。また重要な変化として、ロクロから
切り離す方法が8世紀まではヘラ切り主体であったのが、9世紀にな
ると糸切り中心になります。時代が下ると、切り離し痕の調整もなくな
ります。

土師器の杯では、8世紀までは、古墳時代以来の手持ちヘラ削りの
杯が見られますが、8世紀後半にはロクロで作られるようになります。
大きな変化は須恵器と同じで、時期が新しくなると口縁が開いて底径
が小さくなります。9世紀の終わりのころになると、全体的に小ぶり
で高い高台こうだいが付くものが加わります。また、9世紀には内面に黒色処理
を施したのも見られます。

釉薬をかけた陶器は、奈良時代までは奈良三彩が国府などで使われ
ますが、9世紀には固く焼き締った灰釉陶器かいゆうが作られるようになり、
官衙や寺院を中心に使われました。

この時期の土師器の中には、紀年銘が記載された墨書土器があり
ます。八千代市北海道遺跡 D048 住居跡からは、「承和五年」(838年)
と読めるものがあり、編年の根拠の一つとして重要な資料です。

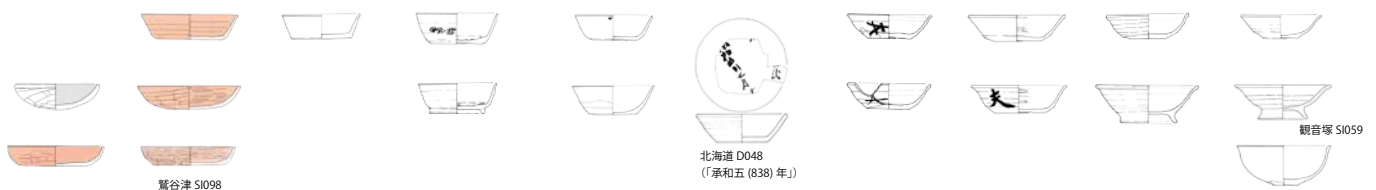


5_2 東京国立博物館所蔵
上：脚付銅鉢（文化遺産オンラインより）
下：響銅蓋鉢（Colbaseより）

須恵器蓋・杯



土師器杯



皿・盤



甕・甔



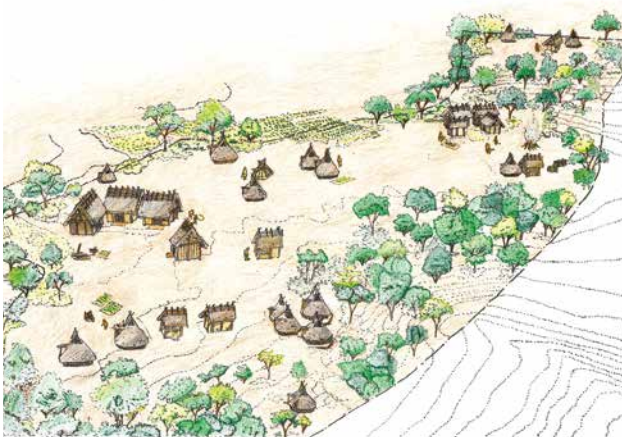
8c 前 8c 中 8c 後 9c 初 9c 前 9c 中 9c 後 9c 末 10c 前
鷺谷津 SI015 白幡前 D091 白幡前 D280 白幡前 D067 白幡前 D285 白幡前 D023 白幡前 D208 白幡前 D030 白幡前 D149
観音塚 SI286 鷺谷津 SI087 観音塚 SI331

5_3 古代の土器

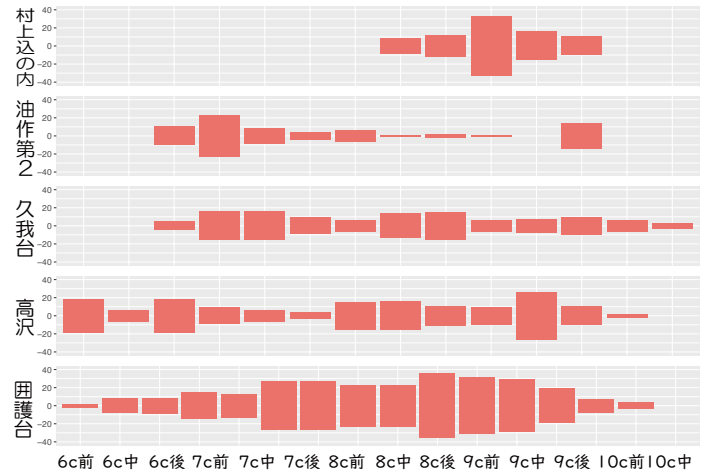
古代の集落



5_4 開墾の様子（『石山寺縁起絵巻』 Colbaseより）



5_5 古代の集落復原（東金市山田水呑遺跡 9世紀中
『千葉県の歴史』資料編考古3（奈良・平安）に着色）



5_6 古代の集落変遷
（萩原1995を元に図化 各グラフの縦幅は竪穴住居の数）

千葉県内では、1970年代から空港や鉄道、道路の建設あるいは宅地造成といった広範囲にわたる開発工事が計画され、それに伴う発掘調査が数多く行われました。ただの山林だと思われている場所が、台地全面が調査されることによって、古代の集落の変遷が明らかとなりました。

集落遺跡から出土する土器の編年をもとに集落の消長をみると、古墳時代から長期にわたって集落が継続する遺跡や数十年の短い期間で終わってしまう集落などさまざまなものが確認されます（図版5_6）。集落の消長によって、大きく二つのタイプに分けることができます。一つ目は、古墳時代から奈良・平安時代まで連綿と続く集落。二つ目は、律令国家が成立してくる7世紀後半以降に突然現れる集落です。



5_7 千葉市高沢遺跡出土灰釉陶器

古墳時代から奈良・平安時代まで連綿と続く集落を「継続型集落」と呼びます。新しい建築様式である掘立柱建物の数は少なく、保守性の強い集落とも考えられます。ただ、畿内産土師器や硯、銅製帯金具といった律令期を象徴する遺物も出土しており、地域における中心的な集落です。

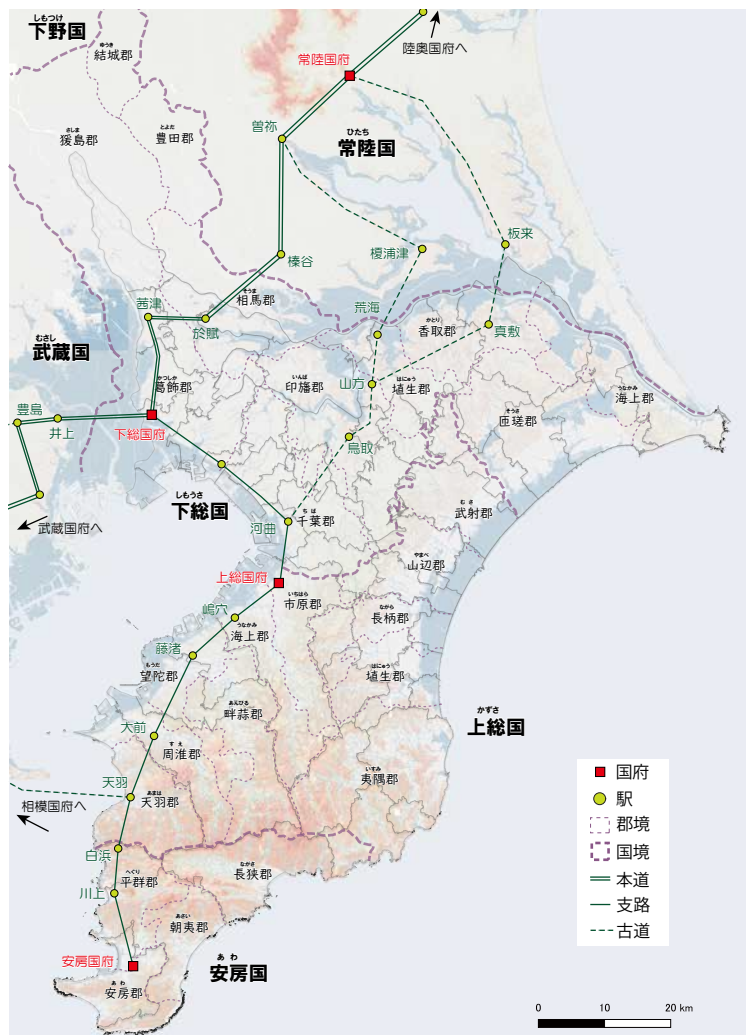
7世紀後半以降に突然現れる集落を「計画村落」あるいは「開発型集落」と呼んでいます。律令国家が成立してくる7世紀後半あるいは8世紀代に突如として台地上に集落が出現します。何らかの要因で新たに開発されたと考えられます。掘立柱建物や墨書土器が多く出土し、従来の古墳時代的様相から脱却した律令的な集落です。

古代の役所 1 — 国の制度と国府 —

日本の古代国家は中央集権的な体制をとっていました。都にある中央の行政組織は、二官八省として整備されました。

一方、地方の行政組織は、五畿七道に地域区分されました。千葉県は東海道に属しており、東海道は現在の三重県から茨城県に至る太平洋沿岸地域に含まれます。行政区分上の東海道は国が管理する官道（幹線道路）名でもありました。官道は、国府と国府を結ぶ主要交通路としての役割も担っていました。官道には30里（約16km）ごとに駅家が置かれました。駅家には馬が配備されていました。

千葉市中央区の観音塚遺跡からは、「子驛口」という墨書土器が出土しました。「驛」とは、官道の駅家を指す墨書土器であり、駅家に関連する施設と想定されます。観音塚遺跡は掘立柱建物跡が22棟整然と並んでいました。また、「和同開珎」（1枚）や畿内産土師器・灰釉陶器が多く出土しています。近くには上総国府と下総国府を結ぶ官道と香取神宮へ向かう道の分岐点に「河曲駅」（千葉郡）が置かれており、この駅家の管理あるいは補完施設として機能していたことが想定されます。



5_8 房総の国・郡と官道・駅(『千葉県の歴史 資料編 古代』を元に作成)



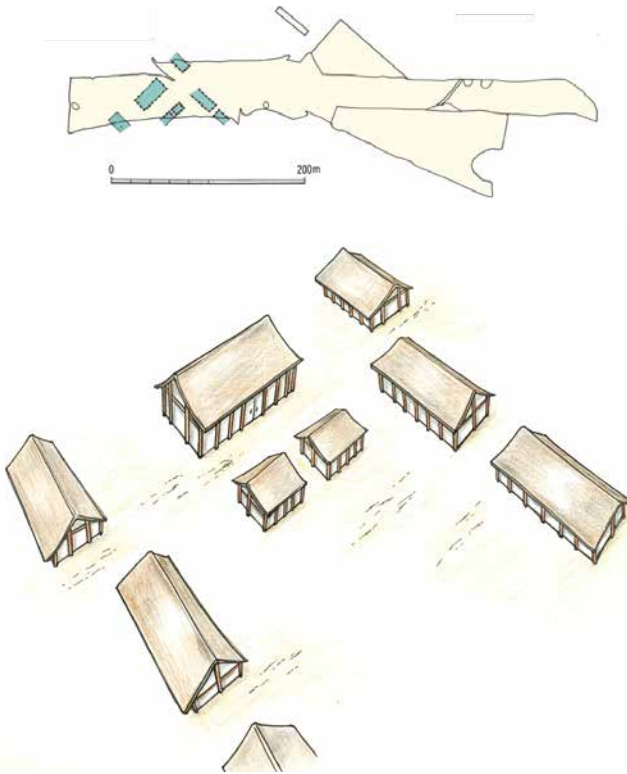
5_9 観音塚遺跡出土「子驛口」墨書土器・金銅製鈴



5_10 市川市国府台遺跡第13地点出土越州窯青磁

5_11 千葉市大北遺跡出土畿内産土師器

古代の役所 2 — 郡衙 —



5_12 大畑 I 遺跡（埴生郡衙）建物配置図（中田歌織 画）

日本の古代国家は、地方の行政組織の単位として国の下に郡を置き、郡の下に里（のちに郷）を置きました。それぞれに役人が置かれ、国には太政官が任命した国司が中央から派遣されました。郡の役人は郡司といい、大領・少領・主政・主帳の四等官をその土地の有力氏族から選びました。行政組織の末端である里は50戸で組織され、里長が置かれました。

郡には「郡衙」と呼ばれる郡の役所が設置されました。「郡衙」は、正税である米を収納する倉庫である正倉、郡司が政務を行う郡庁、巡検にきた国司などが宿泊する館、さらに食事や宴会をまかなう厨家などが掘立柱建物で構成されていました。

我孫子市日秀西遺跡からは倉庫と考えられる大型の掘立柱建物跡が確認されています。掘立柱建物跡が東西180m、南北100mの範囲に整然と配列されていたことから下総国相馬郡の正倉と考えられています（県指定史跡、図版5_1）。

印旛郡栄町大畑 I 遺跡から「コ」の字型に配置された政庁域の可能性のある掘立柱建物跡が確認され、唐三彩陶枕や円面硯といった官衙から出土する遺物も見つかっています。下総国埴生郡衙と考えられています。



5_13 日秀西遺跡（相馬郡衙）12号掘立柱建物跡（正倉）



5_14 役人の仕事風景（佐藤喜一郎 画）

九（状カ）庄世



5_15 観音塚遺跡出土 刻書管玉



5_16 大畑 I 遺跡出土 円面硯

古代の寺院 1 — 国分寺・郡寺 —

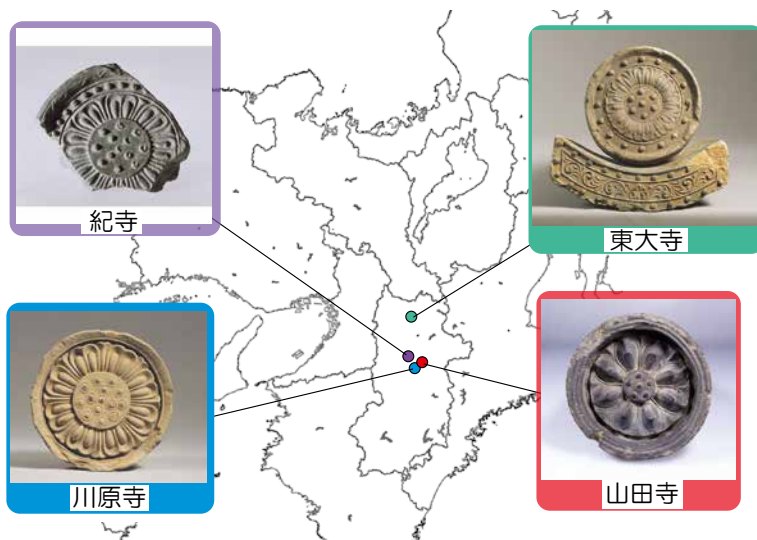
仏教の力で国を鎮め護るという鎮護国家思想のもと、全国に国分寺・国分尼寺が建立されました。千葉県にも、上総国・下総国・安房国にそれぞれ国分寺・国分尼寺が建立されました。

それとは別に、国分寺ができる以前に地方の豪族によって建立された寺院を初期寺院と呼んでいます。これらの寺は律令期の行政組織に組み込まれ評督（郡司）になった人々を主体として、評（郡）単位で寺院が建立され、

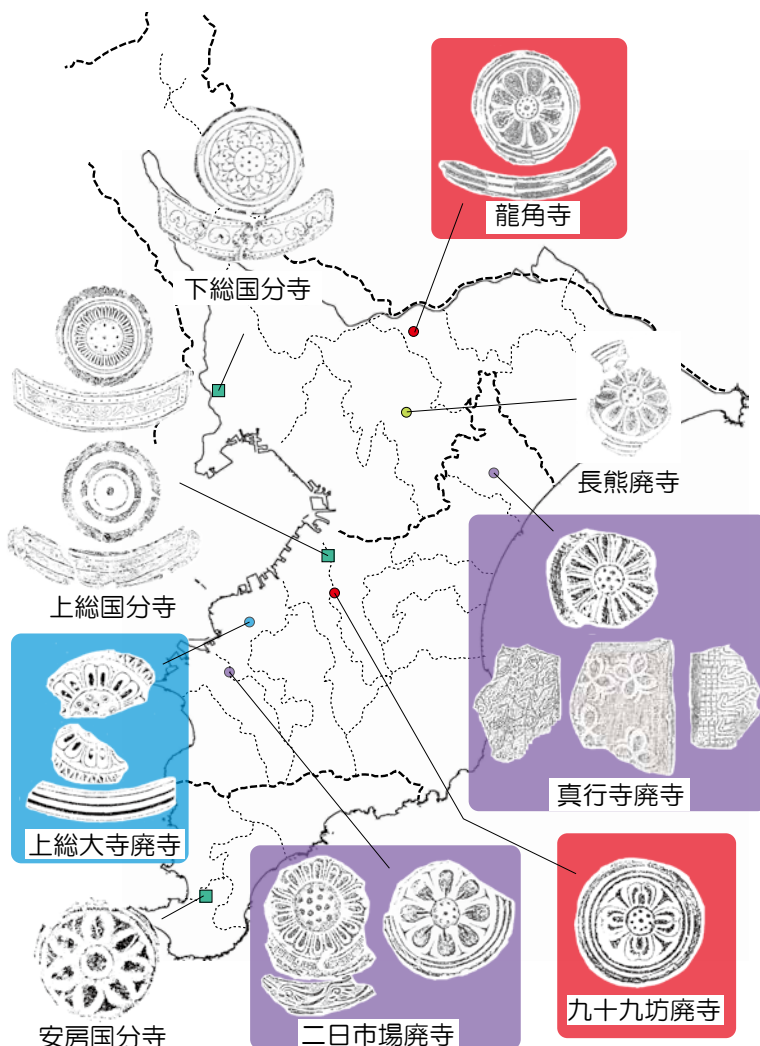
豪族を中心に浸透していきました。それに伴い権威の象徴が古墳から寺院へ移行しました。

屋根に葺かれた軒先瓦の文様などから、川原寺系・山田寺系・紀寺系など様々な系統の瓦が地方でも使用されていることがわかっています。

上総国分寺創建期の瓦を焼いた市原市川焼瓦窯跡がある川焼台遺跡からは、用途不明の瓦質製品が出土しました。この遺物は、香印盤（時香盤、香の粉を細長く敷いたものを焚いて時刻を知るための道具）またはその押型の鋳型という説、建物の軒先を飾る銅板の鋳型という説があります。



5_17 畿内の古代瓦



5_18 房総の古代瓦



5_19 上総国分尼寺復元模型
（『千葉県の歴史』資料編考古3（奈良・平安）より）

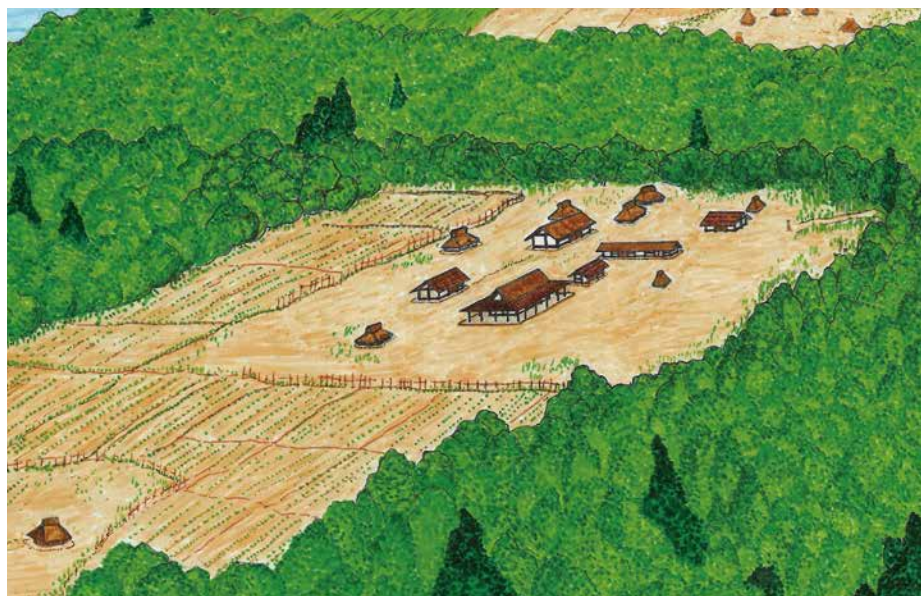


5_20 川焼台遺跡出土用途不明瓦質製品

古代の寺院2 一村の寺一



5_21 印西市馬込遺跡出土瓦塔・鉄鉢形土器
(県指定有形文化財)



5_22 村落内寺院の復元図(袖ヶ浦市遠寺原遺跡 笹生衛 画)



5_23 成田市山口遺跡 四面庇付建物と双堂



5_24 八千代市井戸向
遺跡出土青銅製小仏像



5_25 井戸向遺跡出土 三彩托・小壺

国分寺が建立された8世紀中頃以降、仏教は民間へと普及し、村単位で寺(村落内寺院)が建立されるようになります。

村の寺院は大きく、屋根に瓦を葺くグループと葺かないグループに分けることができます。

瓦を葺くグループは、瓦を屋根全体ではなく棟の部分だけに載せた四面に庇のある掘立柱建物という格式の高い建物を中心として整然とした建物配置をとっています。国分寺系の瓦が出土する寺院は国分寺との関係が当然想定されます。また、国分寺とは異なった系譜の瓦が出土する例があり、豪族層や地域の有力者の関与が想定されます。

瓦を葺かないグループは、大型掘立柱建物やいくつかの建物で構成されており、「寺」と書かれた墨書土器や小仏像、托鉢の際に使う瓦質や土師器の鉢など僧侶の存在がうかがわれる遺物が出土しています。「富豪の輩」という、在地の有力者によって建てられたと考えられる村の寺院です。さらには、小規模な仏教施設だけで構成される村のお堂のような寺も数多く存在します。



5_26 成田市加良部遺跡出土墨書土器
上:「私得」(得は得度を意味するか)
下:「忍保寺」

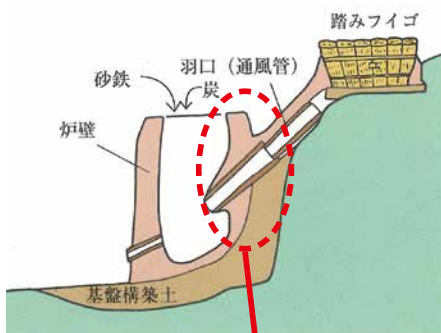
古代の工房 1 — 製鉄・鍛冶 —

古墳時代に普及した製鉄・鍛冶の技術は、古代になると大規模な操業が行われるようになります。

鉄生産では同じ「せいれん」でも、「製」錬と「精」錬と文字を使い分けます。製錬は砂鉄や鉄鉱石から鉄を抽出する技術で、近世に完成した、たたら製鉄が含まれます。精錬は製錬された鉄から不純物を取り除いて鉄素材を作る技術です。鉄は含まれる炭素の含有量によって大きく性質が変わるため、精錬によって炭素量の調整も行われました。製錬炉と精錬炉は構造がまったく異なり、製錬でははじめは箱形炉、のちに豎形炉が使われました。

柏市花前Ⅰ・Ⅱ遺跡では、丘陵の斜面を利用して製錬を行う半地下式豎形炉が6基、精錬炉が3基見つかり、製鉄専門の工房群と考えられています。また住居からは鍛冶の際に発生するわんがたさい たんどうはくへん椀形滓や鍛造剥片、つぼ埴塼も出土していることから、る鋳物も含む鉄製品まで製作していました。

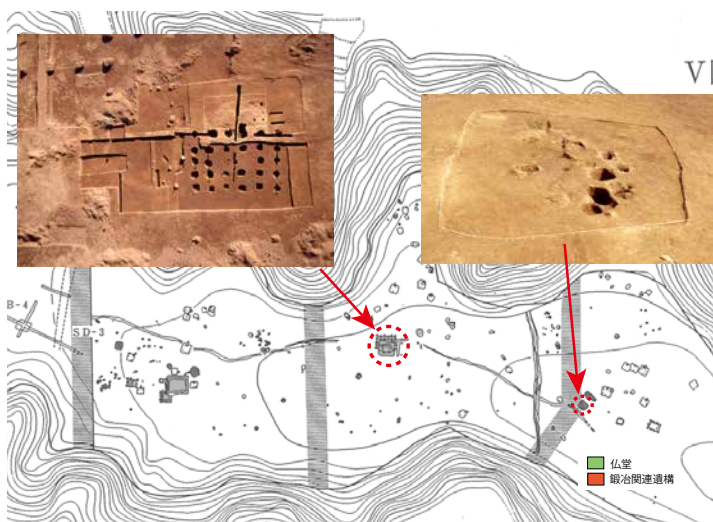
寺院に付属する鍛冶遺構も見つかっています。木更津市久野遺跡では、仏堂と考えられる庇付掘立柱建物の近くで、鍛冶関連の遺構が見つかっています。寺院が造営されるのに伴い、釘や仏具などを製作・修繕するために営まれたとみられています。また、村落に付属する鍛冶の技術も利用して、地域の有力者による開墾をはじめとする地域の開発を可能にしていたようです。



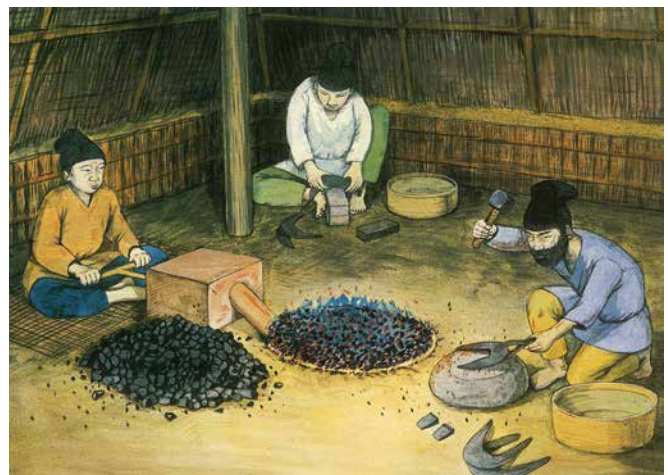
5_27 花前Ⅱ遺跡073製錬炉



5_28 豎形炉の操業復元図 (佐藤喜一郎 画)



5_29 久野遺跡 仏堂と鍛冶関連遺構



5_30 古代鍛冶工房の復元図 (佐藤喜一郎 画)

古代の工房 2 — 窯業 —

古墳時代に須恵器の製作技術が朝鮮半島から伝わってから、古代の土器作りは、須恵器を製作する登窯^{のぼりがま}と、土師器を作る野焼きの土器焼成坑の二つが併存するようになります。房総では須恵器の窯跡は少なく、東海地方の湖西・猿投^{こさい さなげ}や常陸国の新治^{にいじり}、北武蔵の南比企^{みなひき}など他地域からの搬入に大きく依存していたようです。しかし、県内でも市原市永田・不入窯^{ながった ふいり}など官衙や寺院・集落に供給するための須恵器窯跡がみつかっています。

土師器焼成遺構は、八千代市の萱田遺跡群^{かやだ}で9世紀頃のもの、千葉市の城ノ台遺跡^{じょうのたい}で10世紀終わりごろから11世紀にかけての古代後期の焼成遺構が見つかっています。

瓦の生産も行われました。瓦は一般の住居で使用されるものではなく、国分寺、郡寺や有力者の寺院などで葺かれました。市原市川焼台遺跡は上総国分寺、市川市北下遺跡は下総国分寺に供給される瓦が焼かれました。また国分寺では屋根瓦の補修や葺き替えが繰り返されており、時期を経るにしたがって文様・作りとも簡略化が進むことがわかっています。



5_31 永田16号窯



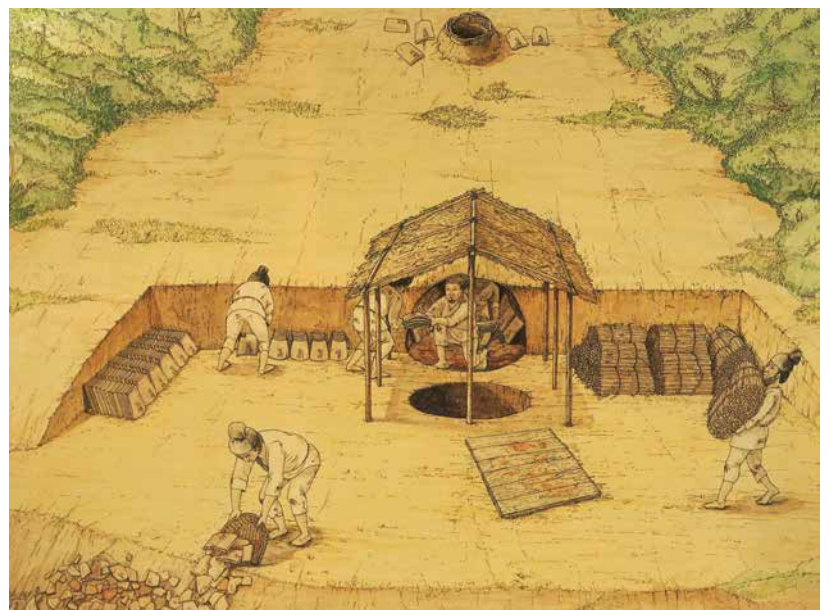
5_32 永田窯土器集積遺構



5_33 城ノ台遺跡 土師器焼成坑



5_34 北下遺跡出土瓦（下総国分寺）



5_35 瓦窯復元図（栄町五斗蒔遺跡 佐藤喜一郎 画）

古代の工房3 — 北下遺跡 —

国府や国分寺の近くでは、そこで使用される瓦や金属器などを供給するために、大規模な官営工房が営まれました。市川市北下遺跡は、下総国分寺に付属する官営工房と考えられています。

瓦窯は2基並んで見つかっていますが、いずれも8世紀中頃のもので、国分寺創建当時の瓦を焼いた窯と考えられます（国指定史跡）。2基の窯は異なる形式のもので、SO002は一般的な登窯、SO003は当時最新の平窯です。

SX002は梵鐘^{ぼんしょう}铸造遺構とみられ、近くから梵鐘の鋳型が出土しています。梵鐘の破片も出土しており、これは新しい梵鐘をつくるために再利用する原料とみられます。このほかに鍛冶遺構なども見つかっており、各種の工房が集中した工業地域と呼べそうです。

北下遺跡では、河道と護岸遺構も見つかっています。人面墨書土器や木製の齋串、人形、刻書のある白木弓などが出土しており、8世紀後半から10世紀までの間、下総国府によって執り行われた河川祭祀の跡と考えられています。



5_36 北下遺跡と下総国府・国分寺の位置
青は標高7m以下の低地



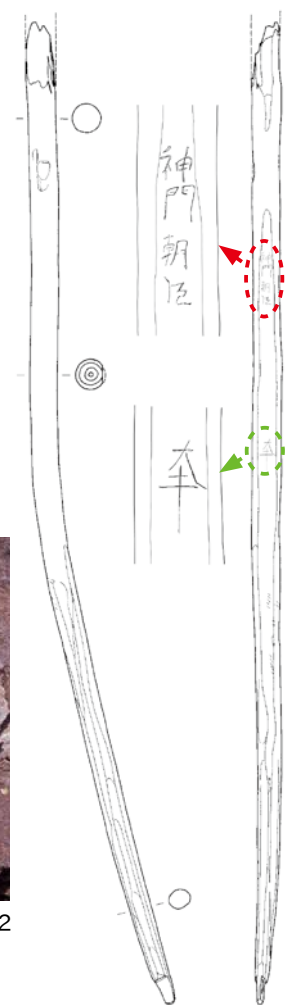
5_37 瓦窯
左：SO002（登窯形式）、右：SO003（平窯形式）



5_38 梵鐘铸造遺構SX002



5_39 出土梵鐘と鋳型 梵鐘は天安2年銘梵鐘（滋賀県立美術館所蔵「延暦寺西宝幢院」）（文化遺産オンラインより）

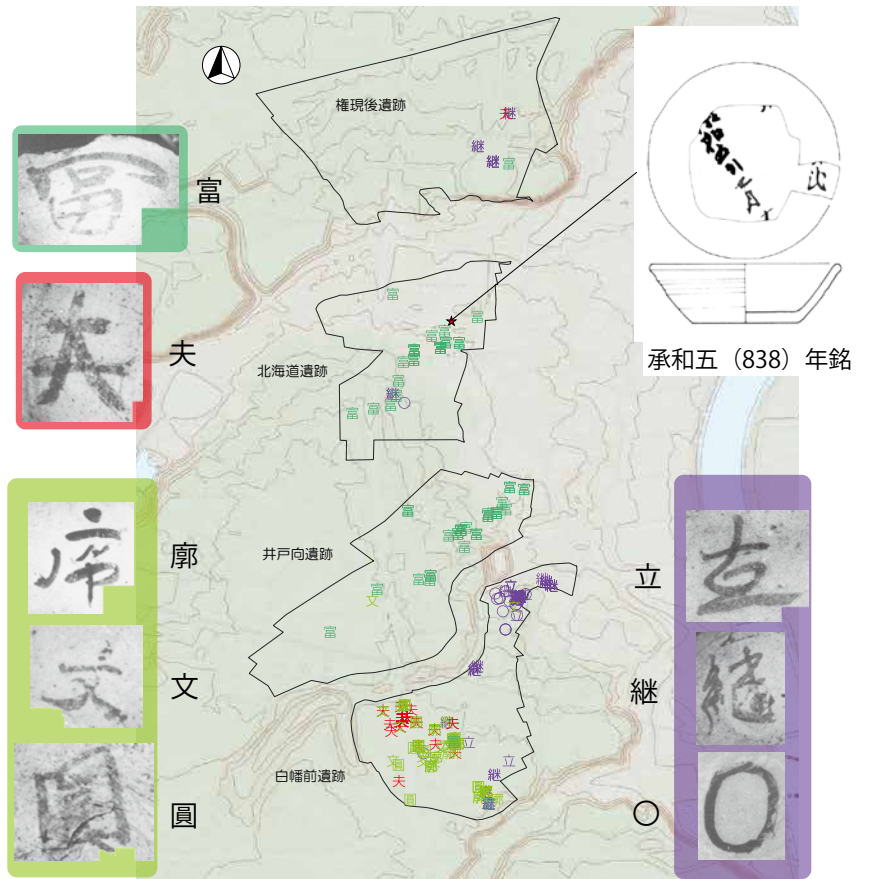


5_40 白木弓「神門朝臣」「奉」

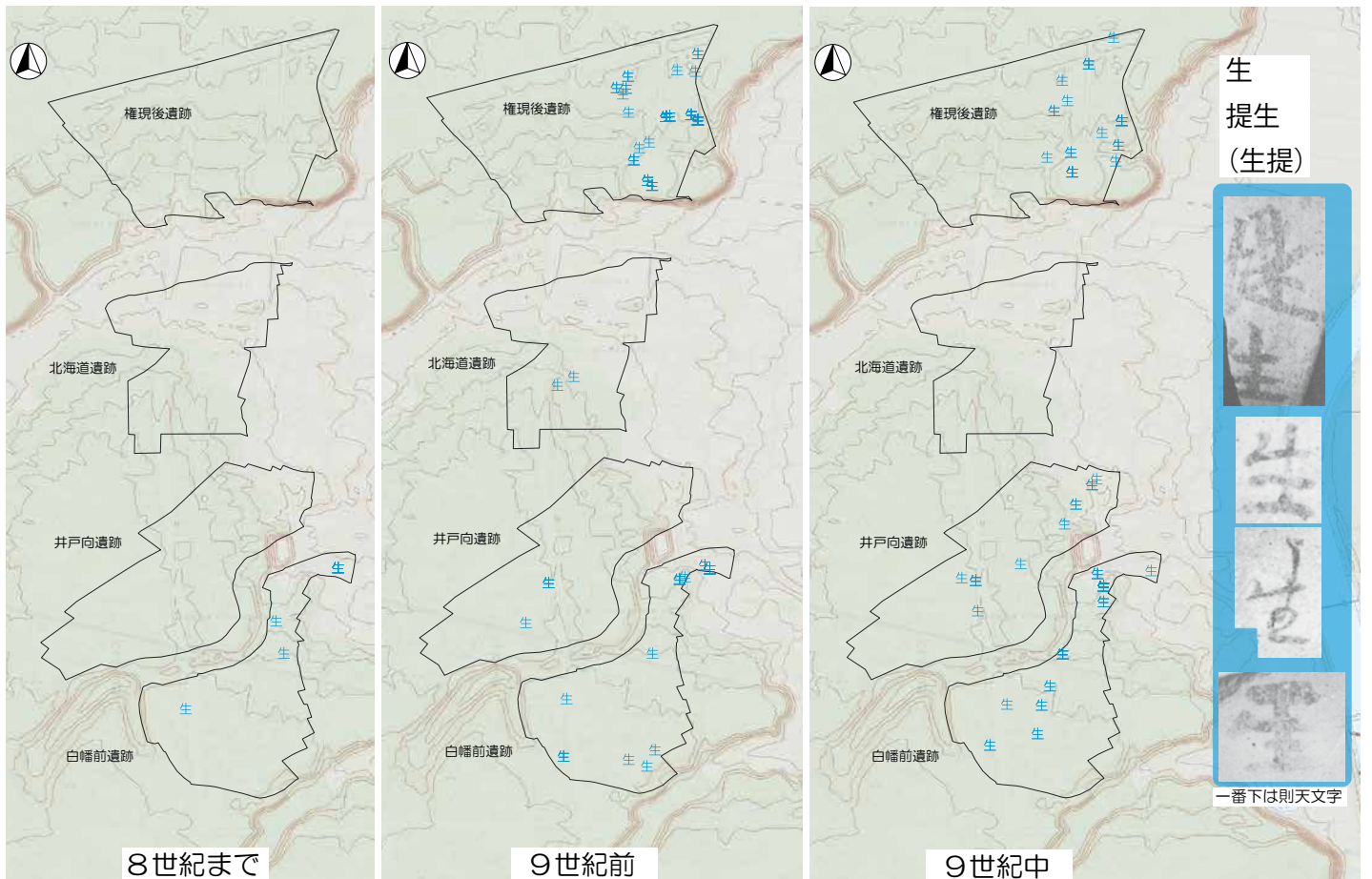
墨書土器 1 — 萱田遺跡群 —

古代は、文書行政が整備されたことにもなって、文字の使用が本格的になった時代です。紙は腐食しやすく貴重品だったため使用が限られていたことや、木簡は荷札などで移動することが多いため遺跡に残ることがほとんどなく、出土文字資料の大半は土器に文字が書かれた墨書土器です。千葉県では、全国最多の墨書土器が出土しています。

八千代市萱田遺跡群では、地区によって異なる文字が書かれた土器が出土しており、集団ごとに使用する文字が決まっていたようです。中でも「生」・「提生」と書かれた墨書土器は白幡前遺跡と権現後遺跡から出土しており、9世紀の前半頃に白幡前遺跡の集団が新たに権現後遺跡を開拓した様子をうかがうことができます。



5_41 萱田遺跡群墨書土器 文字分布範囲



5_42 萱田遺跡群墨書土器 「生」「提生」時期別分布範囲

墨書土器 2 —文字からわかること—

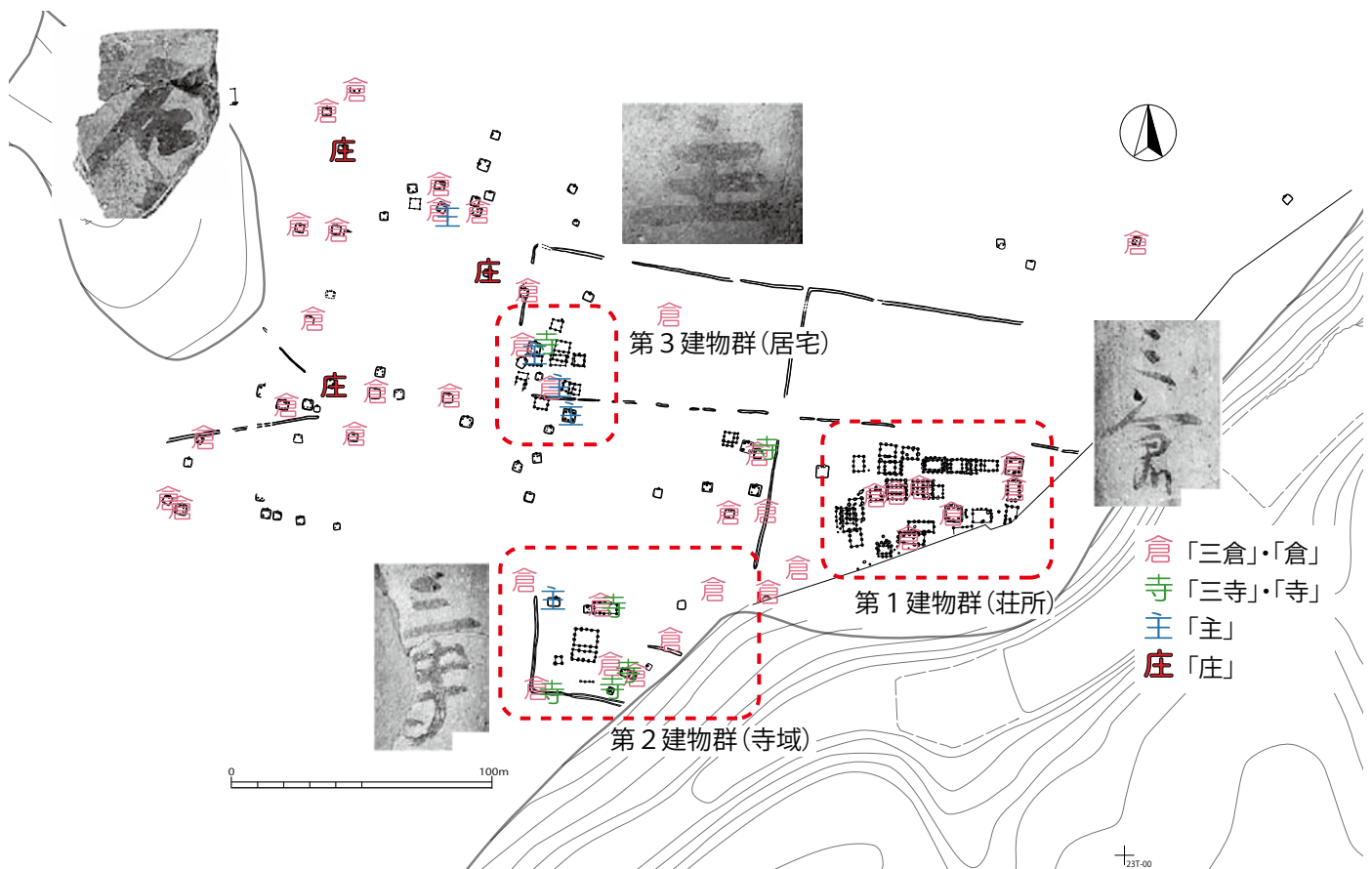
墨書土器に書かれた文字と文献資料を照合することで、様々なことが分かります。

香取市吉原三王遺跡^{よしわらのう}では、「吉原」、「大島」などと書かれた墨書土器が壁柱穴のある比較的大きな竪穴住居跡から複数出土しました。これらは応保2（1162）年に書かれた「大禰宜実房^{おおねぎさねふさ}讓状^{あうぼう}」に記載された地名と一致しており、当時の香取神宮領の地名を示していると考えられます。また、文字が記された土器の年代から、8世紀には「吉原大島」と呼ばれた地区が9世紀に入って「八畠」「大島」などに分割されたと推定されています。

酒々井町飯積原山遺跡^{いづみほらやま}では、「三倉（みくら＝みやけ）」、「庄」という墨書土器が出土しており、ここが荘園の中心であったと考えられています。ここでは溝によって区画された掘立柱建物跡群が3か所確認されており、「三寺」、「主」という墨書土器から、それぞれのグループの性格を示しているものと考えられます。

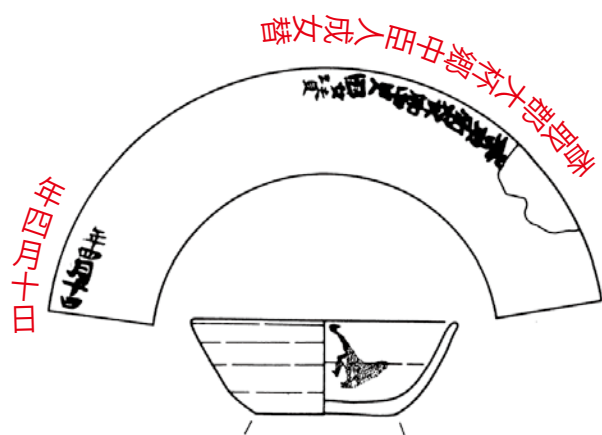


5_43 吉原三王遺跡 墨書土器分布



5_44 飯積原山遺跡 墨書土器分布

墨書土器 3 — 祭祀・まじないの墨書 —



5_45 吉原三王遺跡23号住居出土墨書土器



5_46 白幡前遺跡D189出土墨書土器



5_47 北下遺跡出土墨書土器 (右上は内面、ほかは外面)



香取市吉原三王遺跡 23 号住居からは、同じ文面の墨書土器が出土しており、いずれも「香取郡大坏郷中かとりくんおおつきごうなか臣人成女替とみのひとなり」とあり、香取神宮の交替奉仕を記したものと考えられています。こうした墨書には、地名と人名、年号が書かれているものがあり、当時の地域社会を考える上で重要な資料です。

まじないで使われたとみられる墨書土器もあり、中には人面が描かれたものもあります。市川市北下遺跡からは、多くの人面墨書土器が祭祀具とともに出土しています。精巧に描かれたものから稚拙なものまでありますが、表情が豊かに描かれています。図版 5-47 右上の資料は、則天文字の「𠂇」の中に顔を描いています。人面墨書の多くは杯に描かれていますが、八千代市白幡前遺跡 D189 出土のものは甕に描かれており、裏には「村上郷丈むらかみごうせつか部のくによりあましらほたまえなな部国依甘魚」と地名・人名が書かれています。

さまざまな墓

奈良・平安時代のお墓の変遷を見てみましょう。

古墳時代以来の系譜がたどれるものとしては、横穴墓よこあなや方形墳墓、土坑墓に遺骸をおさめる葬送が認められます。横穴墓は8世紀初頭を最後に作られませんが、追葬に利用されています。また方形墳墓は地下に横穴を掘る形式の埋葬施設を持ち、市原市北部を中心として8世紀前半まで、一部では9世紀代まで造られました。土坑墓は下総国から上総国北部にかけて分布しています。

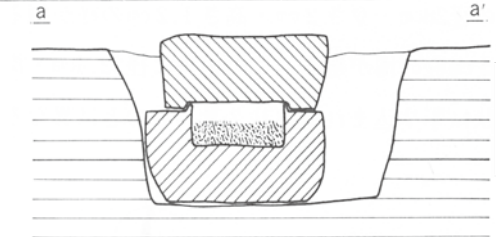
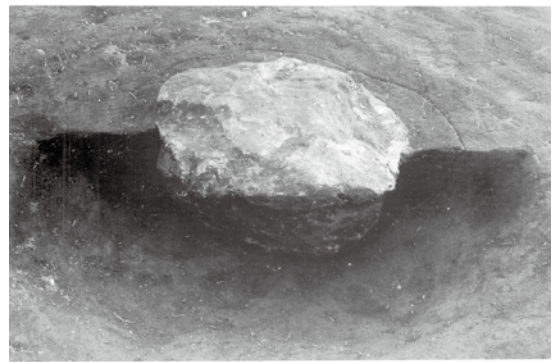
8世紀に入ると、火葬という葬送が導入されます。火葬墓は仏教信仰と関連して広まりました。火葬墓は単独で骨壺（骨蔵器）が埋葬されるものと、方形墳墓の埋葬施設として骨蔵器を埋葬するものがあります。

骨蔵器としては、石櫃いしびつ、木櫃もくびつ、灰釉陶器、須恵器、土師器など様々な種類を使用しています。

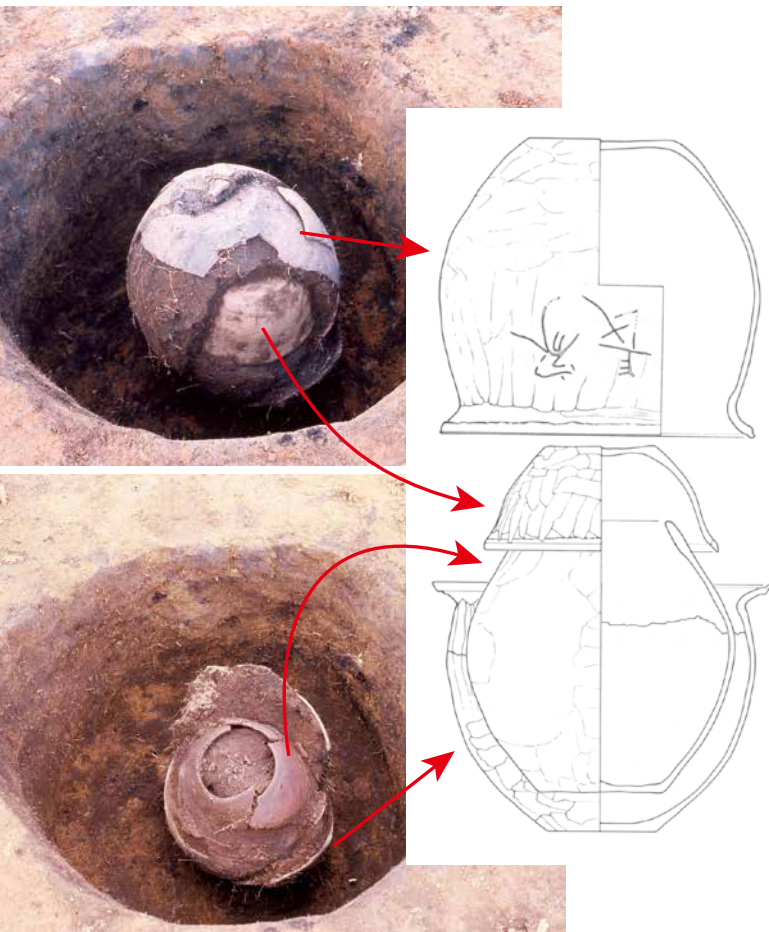
多古町林小原たごおばらくだい子台遺跡例のように骨を納めた内容器を「家長」とへら書きされた土師器甕の外容器に納めた例も存在します。また、買地券ばいちけんと思われる鉄板も共伴しています。



5_48 市原市武士遺跡007号火葬墓



5_49 富津市岩坂大台遺跡3号火葬墓



5_50 林小原たごおばらくだい子台遺跡20号火葬墓（右は埋納状態復元図と鉄板）



5_51 栄町龍角寺ニュータウンNo.4 遺跡65号土坑（上は骨蔵器、断面の骨蔵器周辺の黒い層は炭層）

中近世（平安末～江戸時代）

はじめに



6_1 笹子城跡全景

諸説ありますが、今回の展示では中世は院政期（12世紀後半）から戦国時代（16世紀末）、近世はその後から明治維新（19世紀後半）までとして扱っていきます。

中世において、千葉県は東京湾を隔てて鎌倉に接しており、武士や僧侶の往来も盛んで、鎌倉の有力寺社の所領も多くみられました。また東京湾を利用した海上交通も盛んで、当時流通経済の要となっていた鎌倉を通して、多くの物資や文物が持ち込まれました。鎌倉の墓制の特徴であるやぐらが房総南部で見られ、国産陶器のみならず中国製の磁器が出土するのはそのためです。

近世では徳川家康の関東入府後、千葉県内は幕領、大名領、旗本領が混在するようになります。また江戸に隣接するため幕府の鷹場や牧が作られる等、政治・経済面などで深いつながりがありました。

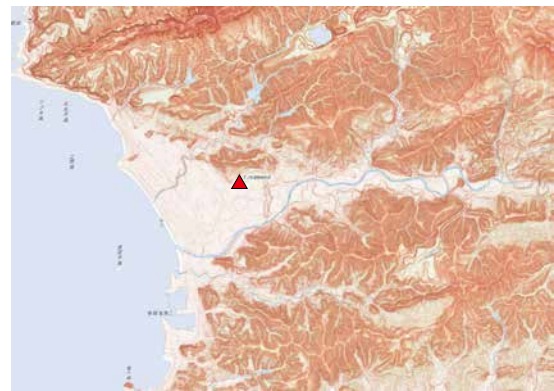
開発行為に伴うものですが、県内での中近世遺跡の発掘調査事例も増え、遺跡・遺物からも、このような状況をうかがい知ることができます。

城館 1 ー下ノ坊 B 遺跡ー

安房郡鋸南町に所在する^{しもんぼ}下ノ坊 B 遺跡は、標高 11m の河岸段丘上に築かれた遺跡です。全景写真から見てわかるように、丘陵裾部の低地に位置しています。調査の結果大形溝（堀）や掘立柱建物、井戸などが検出され、堀で区画された内部に、掘立柱建物や井戸を配置する館跡であることがわかりました。

出土遺物は貿易陶磁、国産陶器、カワラケ、石製品、金属製品、木製品などが出土しています。低地に立地しているため木製品が多く出土し、井戸には井戸枠も残っていました。また貿易陶磁も多く出土しており、鎌倉との深い関係も考えられます。

出土した遺物から考えると、館の中心時期は 13 世紀後半から 14 世紀前半（鎌倉時代後半から南北朝時代）で、室町時代（15 世紀前半）には衰退していったことが推察されます。中世前期の館として、貴重な調査例といえます。



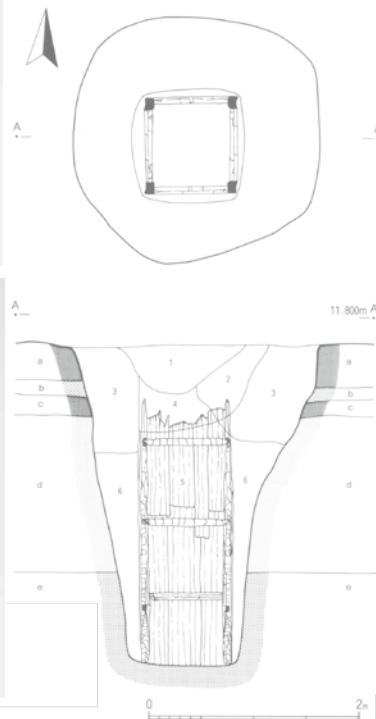
6_2 下ノ坊 B 遺跡の位置と周辺地形



6_3 調査区全景



6_6 出土遺物
上：青磁（貿易陶磁）
下：陶器類（常滑ほか）



6_5 井戸跡SE1



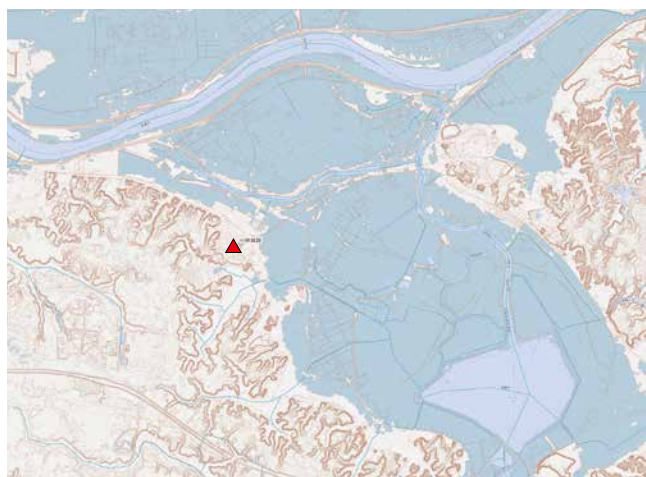
6_4 調査区全測図

城館2 — 小林城跡 —

印西市こはやしじょう小林城跡は標高 30 m 程の台地上にあります。比較的小規模ですが、充実した内容を持った城です。

調査の結果、城は在地領主もしくは村の宗教施設と考えられる場所に、15 世紀中ごろに在地領主の拠点の城として築城されました。その後 16 世紀半ばごろに大きな改変が加えられ、16 世紀後半に廃城行為が行われました。II 郭には虎口が見られ、門が作られていました。門は当初掘立柱の門から、礎石建こくちの四脚門へと作り替えられています。

遺物はカワラケや内耳土器といった在地産土器、瀬戸・美濃や常滑窯の国産陶器、そして貿易陶磁、金属製品、石製品などがみられます。陶磁器類は、離れた場所のものが接合する例が多く、これは築城や廃城行為に伴って、土を動かして土地を改変したためでしょう。戦国時代在地領主の城の好例といえます。



6_7 小林城跡の位置と周辺地形（青は香取海）



6_8 小林城跡縄張り図



6_9 小林城跡全景写真

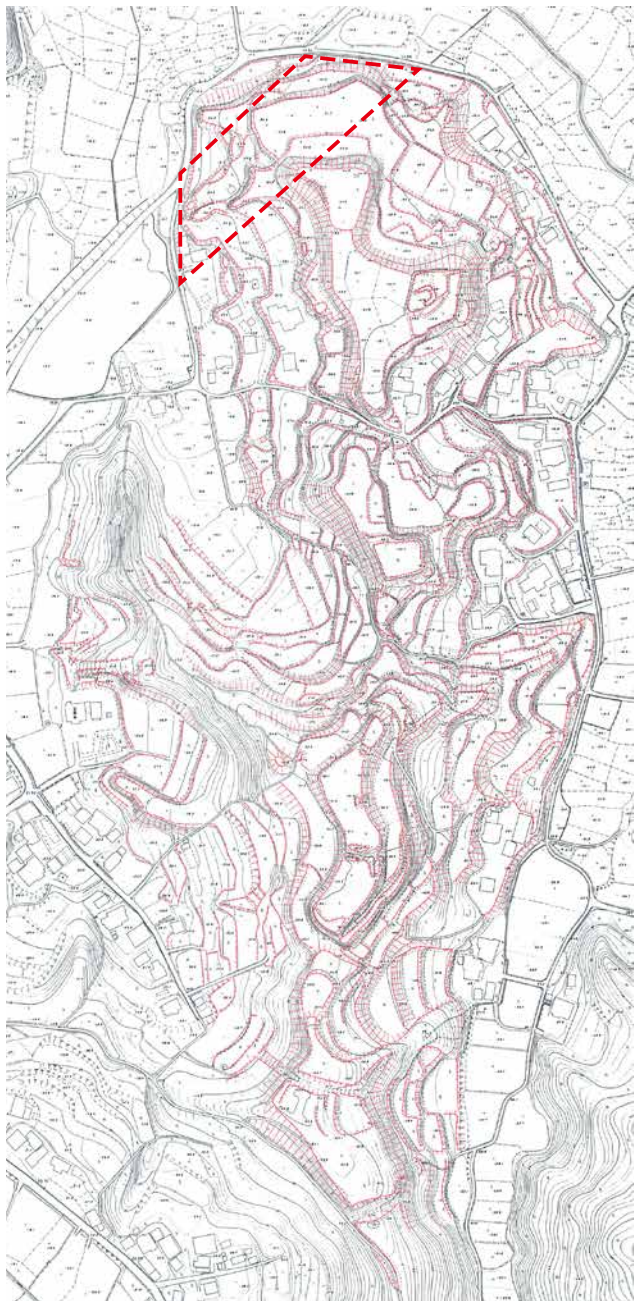


6_10 第II郭



6_11 小林城跡出土大甕・茶臼

城館3 — 笹子城跡 —



6_12 笹子城跡測量図（赤枠は調査範囲）

木更津市さきこじょう笹子城跡は、小櫃川左岸の標高70mほどの丘陵にあり、東西約400m、南北約850mの大規模な城郭です。真里谷城を本拠とする真里谷武田氏の領内なので、同氏に関連した城郭と考えられています。

調査は城郭の北端部で行われ、22条の堀跡、15か所の腰曲輪（平場）が検出されました。出土遺物は貿易陶磁、瀬戸美濃などの国産陶器や在産の土器類、金属製品、石製品、銭貨などが多量に出土しました。特に陶磁器類の出土量は、千葉県内では最多です。また珍しい遺物として水晶製五輪塔、独鈷杵、銅製分銅、中国製茶入が出土しています。

日常に使われる陶磁器類も多く出土し、平場では多数の建物跡や土坑などが検出されたことから、城内に生活空間が作られていたことがわかります。また廃城行為にあたって埋められた堀から多くの石塔が出土しているため、城内に墓域も営まれていたと考えられます。城郭の規模や出土遺物の内容などは、戦国時代後半の広域領主の城郭であることを映し出しています。



6_13 笹子城跡出土遺物
（分銅・水晶製五輪塔・茶入・独鈷杵・青磁皿・白磁皿）

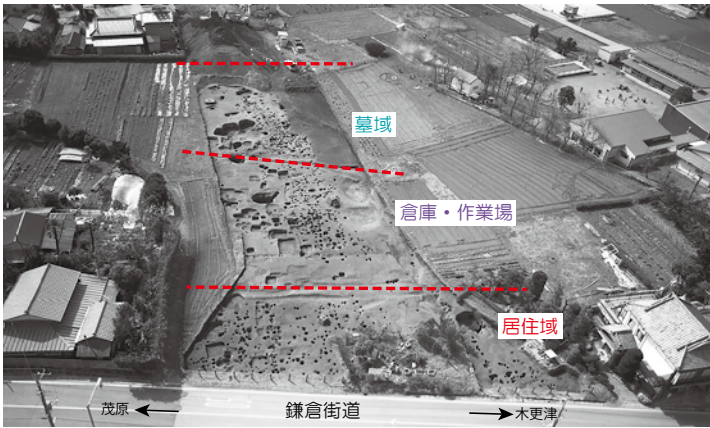


6_14 平場12

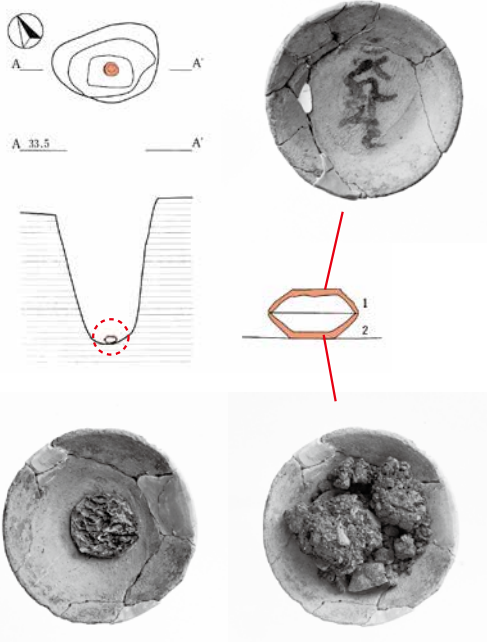


6_15 平場6・7

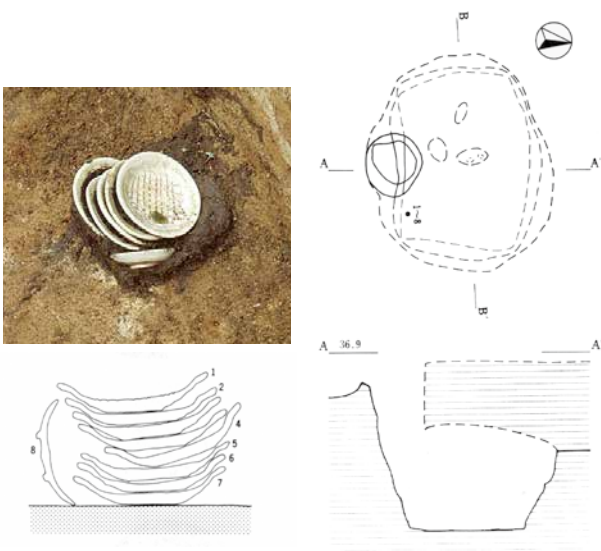
中近世の集落遺跡



6_16 荒久遺跡(2) 平成3年度調査区全景



6_17 P268出土かわらけ
(下右：炭化米検出、下左：炭化米除去後)



6_18 SK231瀬戸卸皿・白磁皿出土

現代の村を見ると、村の中には集落だけでなく、墓地や信仰の場所も付随します。中世でも同様で、建物だけでなく、墓やまじないの跡が見つかることが多くみられます。

袖ヶ浦市の荒久遺跡(2)でも、街道に面して掘立柱建物などからなる居住域、その背後に方形竪穴遺構・地下式坑などからなる作業・倉庫の場、そして土坑墓などが見られる墓域がみられます。地下式坑 SK231の床上からは、9枚の卸皿と白磁皿がまとめて出土するという、特殊な状況を示しています。

また P268 からは、合わせ口状態のカワラケが出土しました。カワラケの底には梵字で不動明王が書かれており、地鎮を行った可能性が考えられます。

酒々井町の本佐倉上宿遺跡は、佐倉市・酒々井町にまたがる本佐倉城の外郭施設を形成すると考えられる遺跡で、16世紀に掘立柱建物からなる集落が営まれました。17世紀以降は、明確な住居遺構は検出されていませんが、陶器などの遺物が多量に出土しており、16世紀に城の外郭施設として誕生し、近世・近代まで継続して営まれた集落といえます。



6_19 上本佐倉上宿遺跡出土遺物



6_20 上本佐倉上宿遺跡4区全景

中世の墓



6_21 『餓鬼草子』に描かれた墓 (Colbaseより)



6_22 廿五里城跡塚断面

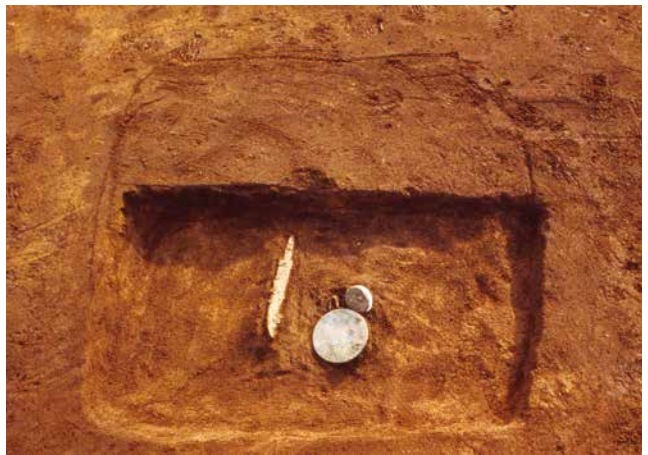


6_23 大甕内人骨出土状況

中近世の墓は土坑墓、火葬墓といった形のものが多く見つかっていますが、それ以外の形をとるものもあります。千葉市の廿五里城跡は城が築かれる前は中世の墓地で、土坑墓、火葬墓、火葬跡のほかに塚墓という特殊な墓が検出されました。これは常滑焼の大甕を棺とし、棺の埋納後に土を積み上げて塚を築いたものです。

墓の副葬品は少なく、カワラケ・銭貨・陶磁器類、近世ではキセルなどがみられます。特殊なものとして中世前期の土坑墓では、鏡を副葬する例がみられます。香取市吉原三王遺跡 501 土坑墓では、和鏡・銅製蓋を伴う青白磁合子・青磁碗・青白磁皿・短刀・和鋏・毛抜きが副葬されていました。

やぐらは、鎌倉・三浦半島地域に作られた横穴式の武士や僧侶の墳墓です。武士や僧侶の往来が多く、岩盤の共通する千葉南部を中心に、その分布がみられます。茂原市山崎横穴群 4 号址は横穴墓の改変と言われているが、玄室に納骨穴が穿たれ、鏡や宝篋印塔が出土するなど、やぐらの様相を示しています。



6_25 吉原三王遺跡501号土坑墓 遺物出土状況



6_24 山崎横穴群 4 号址



6_26 吉原三王501号土坑墓出土遺物 (毛抜・鋏・短刀・青磁碗・白磁合子・鏡・青白磁皿)

中近世の信仰

千葉県内には 2000 基余りの塚があります。十三塚、三山塚、上人塚など様々な名が付けられたものがありますが、ほとんどが何らかの信仰によって作られたものです。

印西市^{おおつか}大塚塚群は、1 基の方形塚と 4 基の円形塚からなる塚群です。方形塚は中世に築かれたもので東西 26.4 m、南北 25.8 m、高さ 5.1 m で、塚の中心部でカワラケや銭貨を納めた常滑壺が出土しました。他の円形塚は近世に築かれたものですが、方形塚の表土直下から寛永通宝が出土しており、この塚を中心に近世まで信仰が続いたものと思われます

船橋市^{とやま}遠山塚群では、3 基の塚の調査が行われました。3 号塚は 1 辺 10.0m × 8.8m、高さ 2.4m の方形塚で、内部に渡来銭、寛永通宝、数珠玉、頭髮などを納めた有田焼の染付瓶が埋納されており、供養塚として築かれたのでしょう。

板碑^{いたび}は、板状に加工した石材に種字^{しゅうじ}（梵字^{ぼんじ}で仏や菩薩の名を表したもの）などを刻んだもので、板石塔婆^{ぼさつ}とも呼ばれます。供養塔の一種で、墓塔ではありません。市原市草刈六之台遺跡^{くさかりろくのたい}では、3 基の板碑が立った状態で見つかっています。



6_27 大塚1号塚出土遺物



6_28 遠山3号塚断面



6_30 草刈六之台遺跡 板碑出土状況



6_29 遠山3号塚遺物出土状況

銭貨



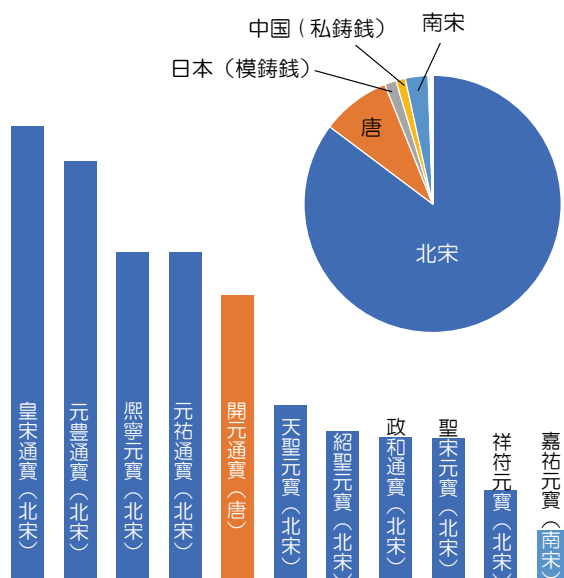
6_31 文協遺跡4SK-014出土状況



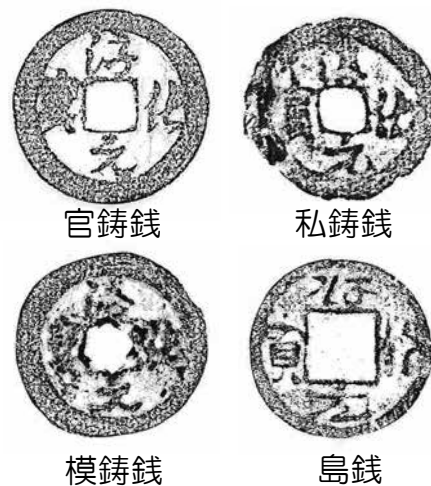
6_32 銭貨埋納復元図



6_33 最古銭と最新銭
上：四銖半兩（前漢）、
下：至大通寶（元）



6_34 出土銭銘上位10種と王朝別割合



6_35 出土銭貨各種(淳化元寶の例 上:中国製、下:日本製)



6_36 緡銭の使われ方
中央の男性が手にしているのが緡銭
(『一遍上人絵詞』 Colbaseより)

平成 22 年 10 月、袖ヶ浦市文協遺跡の発掘調査中に千葉県内最多となる埋蔵銭が発見されました。どれだけの銭が埋まっているのか詳細に調べるには相当な期間が必要と判断されたことから、周囲の土ごと切り取り、室内に運ばれて、少しずつ銭の取り出しが行われました。発見された埋蔵銭は、銅銭 29,931 枚という千葉県最多の出土枚数であることがわかりました。

最新の銭は、中国の元の時代に鑄造された至大通寶(初鑄年 1310 年)でした。このことから、文協遺跡の埋蔵銭は、14 世紀後半に埋められた可能性が最も高いと考えられます。

銭は 97 枚を一つにつないだ緡という単位で連っており、総数を一緡 97 枚で割ると 309 緡で約 31 貫文(1 貫は 1000 枚)、すべてつなぐと 46.4 m にもなります。銭を取り除いた後には、容器の痕跡が現れました。分析の結果、まず地面に穴を掘ったうえで、杉を使った曲物を穴に設置し、徐々に緡銭を蓄えていったと考えられます。銭の総重量は、約 107 kg あり、一度に埋められた可能性は低いと考えられます。

展示資料一覽

時代	展示番号	遺跡名	資料名称	時代	展示番号	遺跡名	資料名称
古墳	1	滝ノ口向台9号墳	板状鉄斧	古墳	69	上赤塚1号墳	直刀
古墳	2	滝ノ口向台9号墳	銅鏃	古墳	70	上赤塚1号墳	銅釧
古墳	3	滝ノ口向台9号墳	高杯	古墳	71	上赤塚1号墳	勾玉
古墳	4	滝ノ口向台9号墳	甕	古墳	72	上赤塚1号墳	管玉
古墳	5	滝ノ口向台9号墳	器台	古墳	73	上赤塚1号墳	管玉
古墳	6	滝ノ口向台9号墳	高杯	古墳	74	上赤塚1号墳	高杯
古墳	7	滝ノ口向台9号墳	鉢	古墳	75	上赤塚1号墳	壺
古墳	8	滝ノ口向台9号墳	小型壺	古墳	76	上赤塚1号墳	刀子形石製模造品
古墳	9	滝ノ口向台9号墳	器台	古墳	77	大作31号墳	土師器杯
古墳	10	菊間新皇塚古墳	剣	古墳	78	大作31号墳	轡
古墳	11	菊間新皇塚古墳	鏝	古墳	79	大作31号墳	鞍金具
古墳	12	菊間新皇塚古墳	ヤリガンナ	古墳	80	大作31号墳	鞍金具
古墳	13	菊間新皇塚古墳	鎌	古墳	81	大作31号墳	鉸具
古墳	14	菊間新皇塚古墳	斧	古墳	82	大作31号墳	鉸具
古墳	15	菊間新皇塚古墳	内行花文鏡	古墳	83	大作31号墳	面繫鉸具
古墳	16	菊間新皇塚古墳	石釧	古墳	84	上福田13号墳	土師杯
古墳	17	菊間新皇塚古墳	琥珀製勾玉	古墳	85	上福田13号墳	須恵杯
古墳	18	菊間新皇塚古墳	管玉	古墳	86	上福田13号墳	須恵杯
古墳	19	菊間新皇塚古墳	管玉	古墳	87	上福田13号墳	須恵蓋
古墳	20	菊間新皇塚古墳	管玉	古墳	88	上福田13号墳	須恵蓋
古墳	21	菊間新皇塚古墳	鉄剣	古墳	89	上福田13号墳	須恵甕
古墳	22	菊間新皇塚古墳	鋤先	古墳	90	上福田13号墳	土師杯
古墳	23	菊間新皇塚古墳	斧	古墳	91	小川崎台3号墳	朝顔形埴輪1
古墳	24	草刈1号墳	銅釧	古墳	92	小川崎台3号墳	人物埴輪1
古墳	25	草刈1号墳	鎌	古墳	93	小川崎台3号墳	人物埴輪2
古墳	26	草刈1号墳	鉄鋌	古墳	94	小川崎台3号墳	馬形埴輪C
古墳	27	草刈1号墳	剣	古墳	95	小川崎台3号墳	鳥形埴輪2
古墳	28	草刈1号墳	ガラス玉	古墳	96	小川崎台3号墳	冢形埴輪B
古墳	29	草刈1号墳	管玉	古墳	97	人形塚古墳	頭に壺を乗せる女子人物
古墳	30	草刈1号墳	管玉	古墳	98	人形塚古墳	銀象嵌鍔大刀
古墳	31	草刈1号墳	矛	古墳	99	人形塚古墳	銀装大刀
古墳	32	草刈1号墳	鉄鏃	古墳	100	人形塚	髭の武人2
古墳	33	草刈1号墳	鉄鏃	古墳	101	大木台2号墳	形象埴輪1
古墳	34	草刈1号墳	腕手刀子	古墳	102	大木台2号墳	形象埴輪5
古墳	35	草刈1号墳	斧	古墳	103	南二重堀遺跡	鉄鋌
古墳	36	草刈1号墳	鋸	古墳	104	南二重堀遺跡	水鳥形土製品
古墳	37	草刈1号墳	勾玉	古墳	105	日秀西遺跡	須恵器杯蓋
古墳	38	草刈1号墳	勾玉	古墳	106	日秀西遺跡	須恵器杯身
古墳	39	草刈1号墳	鉄斧模造品	古墳	107	日秀西遺跡	小札
古墳	40	東寺山石神2号墳	石枕	古墳	108	日秀西遺跡	小札
古墳	41	東寺山石神2号墳	石枕	古墳	109	日秀西遺跡	土師器杯
古墳	42	東寺山石神2号墳	立花	古墳	110	日秀西遺跡	土師器杯
古墳	43	東寺山石神2号墳	立花	古墳	111	日秀西遺跡	土製鋤先
古墳	44	東寺山石神2号墳	立花	古墳	112	日秀西遺跡	土製鋤先
古墳	45	東寺山石神2号墳	立花	古墳	113	八代玉作遺跡(Loc39)	壺
古墳	46	東寺山石神2号墳	立花	古墳	114	八代玉作遺跡(Loc39)	管玉未成品
古墳	47	東寺山石神2号墳	立花	古墳	115	八代玉作遺跡(Loc39)	管玉未成品
古墳	48	東寺山石神2号墳	立花	古墳	116	八代玉作遺跡(Loc39)	管玉未成品
古墳	49	東寺山石神2号墳	立花	古墳	117	八代玉作遺跡(Loc39)	管玉未成品
古墳	50	東寺山石神2号墳	刀子形石製模造品	古墳	118	外小代遺跡(Loc40)	壺
古墳	51	東寺山石神2号墳	刀子形石製模造品	古墳	119	外小代遺跡(Loc40)	高杯
古墳	52	東寺山石神2号墳	刀子形石製模造品	古墳	120	外小代遺跡(Loc40)	管玉製作工程資料
古墳	53	東寺山石神2号墳	鎌形石製模造品	古墳	121	外小代遺跡(Loc40)	管玉製作工程資料
古墳	54	東寺山石神2号墳	刀子形石製模造品	古墳	122	外小代遺跡(Loc40)	管玉製作工程資料
古墳	55	東寺山石神2号墳	鎌形石製模造品	古墳	123	外小代遺跡(Loc40)	管玉製作工程資料
古墳	56	東寺山石神2号墳	鋤先	古墳	124	五反田清水沢遺跡	母岩
古墳	57	東寺山石神2号墳	斧	古墳	125	五反田清水沢遺跡	剣形石製模造品未成品
古墳	58	東寺山石神2号墳	剣	古墳	126	五反田清水沢遺跡	白玉
古墳	59	東寺山石神2号墳	白玉(南側)	古墳	127	五反田清水沢遺跡	白玉未成品
古墳	60	上赤塚1号墳	石枕	古墳	128	五反田清水沢遺跡	白玉未成品
古墳	61	上赤塚1号墳	立花	古墳	129	五反田清水沢遺跡	白玉未成品
古墳	62	上赤塚1号墳	立花	古墳	130	五反田清水沢遺跡	白玉未成品
古墳	63	上赤塚1号墳	立花	古墳	131	五反田清水沢遺跡	白玉未成品
古墳	64	上赤塚1号墳	斧形石製模造品	古墳	132	沖塚遺跡	無頸壺
古墳	65	上赤塚1号墳	鎌形石製模造品	古墳	133	沖塚遺跡	小型壺
古墳	66	上赤塚1号墳	鎌	古墳	134	沖塚遺跡	碗
古墳	67	上赤塚1号墳	鋤先	古墳	135	沖塚遺跡	短頸壺
古墳	68	上赤塚1号墳	斧	古墳	136	沖塚遺跡	椀形滓

時代	展示番号	遺跡名	資料名称	時代	展示番号	遺跡名	資料名称
古墳	137	沖塚遺跡	砂鉄	古代	23	白幡前遺跡	土師器杯
古墳	138	小屋ノ内遺跡	鉄器片	古代	24	白幡前遺跡	土師器杯
古墳	139	小屋ノ内遺跡	鉄器片	古代	25	鷲谷津遺跡	土師器皿
古墳	140	鎌取遺跡	壺	古代	26	白幡前遺跡	土師器杯
古墳	141	鎌取遺跡	高杯脚部転用羽口	古代	27	白幡前遺跡	土師器杯
古墳	142	鎌取遺跡	高杯脚部転用羽口	古代	28	白幡前遺跡	土師器皿
古墳	143	鎌取遺跡	台石	古代	29	観音塚遺跡	土師器皿
古墳	144	鎌取遺跡	ヤリガンナ	古代	30	白幡前遺跡	土師器甕
古墳	145	鎌取遺跡	小札	古代	31	白幡前遺跡	土師器杯
古墳	146	鎌取遺跡	椀形滓	古代	32	白幡前遺跡	土師器杯
古墳	147	市野谷宮尻遺跡	墨書土器	古代	33	白幡前遺跡	土師器杯
古墳	148	草刈遺跡F区	土師器台付甕	古代	34	白幡前遺跡	土師器杯
古墳	149	草刈遺跡F区	土師器壺	古代	35	白幡前遺跡	土師器杯
古墳	150	草刈遺跡F区	土師器壺	古代	36	白幡前遺跡	土師器杯
古墳	151	草刈遺跡F区	土師器器台	古代	37	白幡前遺跡	土師器高台付杯
古墳	152	草刈遺跡F区	土師器鉢	古代	38	白幡前遺跡	土師器杯
古墳	153	草刈遺跡F区	土師器甕	古代	39	白幡前遺跡	土師器杯
古墳	154	草刈遺跡F区	土師器炉器台	古代	40	観音塚遺跡	土師器椀
古墳	155	草刈遺跡F区	須恵器甕	古代	41	白幡前遺跡	土師器甕
古墳	156	草刈六之台遺跡	須恵器杯	古代	42	大北遺跡	金銅製馬具
古墳	157	草刈六之台遺跡	須恵器蓋	古代	43	大北遺跡	須恵器高台付杯
古墳	158	草刈遺跡F区	土師器椀	古代	44	大北遺跡	青銅製刀装具
古墳	159	草刈遺跡F区	土師器杯	古代	45	大北遺跡	畿内産土師器
古墳	160	草刈遺跡F区	土師器甕	古代	46	大北遺跡	畿内産土師器
古墳	161	草刈遺跡C区	土師器高杯	古代	47	大北遺跡	畿内産土師器
古墳	162	草刈遺跡C区	土師器高杯	古代	48	大北遺跡	畿内産土師器
古墳	163	草刈遺跡G区	土師器杯	古代	49	高沢遺跡	灰釉碗
古墳	164	草刈遺跡G区	須恵器杯蓋	古代	50	高沢遺跡	灰釉段皿
古墳	165	草刈遺跡G区	須恵器杯	古代	51	高沢遺跡	灰釉段皿
古墳	166	草刈遺跡G区	土師器高杯	古代	52	高沢遺跡	灰釉皿
古墳	167	草刈遺跡G区	土師器鉢	古代	53	向台遺跡	暗文杯
古墳	168	草刈遺跡G区	土師器甕	古代	54	向台遺跡	赤彩土師杯
古墳	169	草刈遺跡G区	須恵器蓋	古代	55	向台遺跡	須恵合子蓋
古墳	170	草刈遺跡G区	須恵器杯	古代	56	向台遺跡	須恵合子
古墳	171	タルカ作遺跡	土師器高杯	古代	57	向台遺跡	陶硯
古墳	172	タルカ作遺跡	土師器杯	古代	58	向台遺跡	陶硯
古墳	173	タルカ作遺跡	土師器杯	古代	59	井戸向遺跡	土師杯
古墳	174	タルカ作遺跡	土師器杯	古代	60	井戸向遺跡	土師杯
古墳	175	タルカ作遺跡	土師器甕	古代	61	井戸向遺跡	三彩托
古墳	176	タルカ作遺跡	土師器杯	古代	62	井戸向遺跡	三彩小壺
古墳	177	タルカ作遺跡	土師器杯	古代	63	井戸向遺跡	火打金
古墳	178	タルカ作遺跡	土師器高杯	古代	64	井戸向遺跡	石英(火打石)
古墳	179	タルカ作遺跡	土師器高杯	古代	65	井戸向遺跡	炭化米
古墳	180	タルカ作遺跡	土師器小型甕	古代	66	井戸向遺跡	青銅製小仏像
古墳	181	タルカ作遺跡	土師器甕	古代	67	吉原三王遺跡	和鏡
古墳	182	タルカ作遺跡	土師器甕	古代	68	観音塚遺跡	金銅装帯先裏金
古墳	183	観音塚遺跡	須恵器蓋	古代	69	観音塚遺跡	土師器杯
古墳	184	観音塚遺跡	須恵器杯	古代	70	観音塚遺跡	土師器杯
古墳	185	草刈六之台遺跡	赤焼須恵器器台	古代	71	観音塚遺跡	金銅装帯先金具
古代	1	観音塚遺跡	須恵器蓋	古代	72	観音塚遺跡	和同開珎
古代	2	鷲谷津遺跡	須恵器杯	古代	73	観音塚遺跡	土師器杯
古代	3	鷲谷津遺跡	土師器杯	古代	74	観音塚遺跡	土師器杯
古代	4	鷲谷津遺跡	土師器杯	古代	75	観音塚遺跡	穂摘具
古代	5	白幡前遺跡	須恵器杯	古代	76	観音塚遺跡	鉄鏃
古代	6	鷲谷津遺跡	土師器杯	古代	77	観音塚遺跡	勾玉
古代	7	鷲谷津遺跡	土師器杯	古代	78	観音塚遺跡	提げ砥石
古代	8	鷲谷津遺跡	土師器杯	古代	79	観音塚遺跡	畿内系土師器
古代	9	鷲谷津遺跡	土師器杯	古代	80	観音塚遺跡	銅製巡方
古代	10	白幡前遺跡	土師器甕	古代	81	観音塚遺跡	金銅製鈴
古代	11	観音塚遺跡	須恵器蓋	古代	82	観音塚遺跡	銅製巡方
古代	12	観音塚遺跡	須恵器杯	古代	83	観音塚遺跡	墨書土器
古代	13	白幡前遺跡	須恵器杯	古代	84	観音塚遺跡	須恵器杯
古代	14	白幡前遺跡	土師器杯	古代	85	観音塚遺跡	須恵器系施釉陶器長頸壺
古代	15	白幡前遺跡	須恵器杯	古代	86	観音塚遺跡	緑釉稜皿
古代	16	白幡前遺跡	須恵器杯	古代	87	観音塚遺跡	灰釉段皿
古代	17	白幡前遺跡	土師器杯	古代	88	観音塚遺跡	灰釉碗
古代	18	白幡前遺跡	土師器高台付杯	古代	89	観音塚遺跡	灰釉大型碗
古代	19	白幡前遺跡	須恵器高台付皿	古代	90	久我台遺跡	海老錠
古代	20	白幡前遺跡	土師器甕	古代	91	白幡前遺跡	和同開珎
古代	21	鷲谷津遺跡	須恵器杯	古代	92	大畑遺跡 1-2	文字瓦
古代	22	白幡前遺跡	土師器杯	古代	93	草刈遺跡K区	灰釉浄瓶

時代	展示番号	遺跡名	資料名称	時代	展示番号	遺跡名	資料名称
古代	94	国府台遺跡13地点(8)	越州窯青磁	古代	165	北下遺跡	白木弓
古代	95	馬込遺跡	瓦塔A(県指定有形文化財)	古代	166	北下遺跡	形代
古代	96	馬込遺跡	鉄鉢形土器	古代	167	北下遺跡	人形
古代	97	馬込遺跡	瓦塔B(県指定有形文化財)	古代	168	北下遺跡	組み立て式立体人形頭部
古代	98	九十九坊廃寺跡	軒丸瓦	古代	169	北下遺跡	斎串
古代	99	九十九坊廃寺跡	軒平瓦	古代	170	北下遺跡	割りもの鉢
古代	100	真行寺廃寺	軒丸瓦	古代	171	北下遺跡	人面墨書土器
古代	101	真行寺廃寺	墨書土器	古代	172	北下遺跡	人面墨書土器
古代	102	真行寺廃寺	道具瓦	古代	173	北下遺跡	人面墨書土器
古代	103	真行寺廃寺	道具瓦	古代	174	北下遺跡	人面墨書土器
古代	104	長熊廃寺	軒丸瓦	古代	175	北下遺跡	人面墨書土器
古代	105	長熊廃寺	軒平瓦	古代	176	飯積原山遺跡	ヘラ書き土製支脚
古代	106	長熊廃寺	墨書土器	古代	177	西根遺跡	馬形
古代	107	山口遺跡(公津原Loc20)	墨書土器	古代	178	西根遺跡	人形
古代	108	山口遺跡(公津原Loc20)	墨書土器	古代	179	北海道遺跡	墨書土器(八千代市指定文化財)
古代	109	加良部遺跡(公津原Loc15)	墨書土器	古代	180	北海道遺跡	人面墨書土器(八千代市指定文化財)
古代	110	加良部遺跡(公津原Loc15)	墨書土器	古代	181	北下遺跡	墨書土器
古代	111	加良部遺跡(公津原Loc15)	墨書土器	古代	182	西根遺跡	墨書土器
古代	112	加良部遺跡(公津原Loc15)	墨書土器	古代	183	飯積原山遺跡	墨書土器
古代	113	久野遺跡	羽口	古代	184	飯積原山遺跡	墨書土器
古代	114	久野遺跡	墨書土器	古代	185	飯積原山遺跡	墨書土器
古代	115	久野遺跡	墨書土器	古代	186	飯積原山遺跡	墨書土器
古代	116	花前Ⅰ遺跡	板状鉄素材	古代	187	北下遺跡	墨書土器
古代	117	花前Ⅰ遺跡	板状鉄素材	古代	188	北下遺跡	墨書土器
古代	118	花前Ⅰ遺跡	墨書土器	古代	189	北下遺跡	墨書土器
古代	119	花前Ⅰ遺跡	銅製片口杓	古代	190	北下遺跡	墨書土器
古代	120	花前Ⅰ遺跡	タガネ状工具	古代	191	権現後遺跡	墨書土器
古代	121	花前Ⅰ遺跡	鑿	古代	192	権現後遺跡	人面墨書土器(八千代市指定文化財)
古代	122	花前Ⅰ遺跡	金床石	古代	193	西根遺跡	墨書土器
古代	123	花前Ⅱ-1遺跡	墨書土器	古代	194	西根遺跡	墨書土器
古代	124	花前Ⅱ-1遺跡	丸鑿	古代	195	吉原三王遺跡	墨書土器(県指定有形文化財)
古代	125	花前Ⅱ-1遺跡	鑿	古代	196	吉原三王遺跡	墨書土器(県指定有形文化財)
古代	126	花前Ⅱ-1遺跡	珠文鏡	古代	197	吉原三王遺跡	墨書土器(県指定有形文化財)
古代	127	花前Ⅱ-2遺跡	鉄鉢	古代	198	吉原三王遺跡	墨書土器(県指定有形文化財)
古代	128	花前Ⅱ-2遺跡	鉄素材	古代	199	吉原三王遺跡	墨書土器(県指定有形文化財)
古代	129	花前Ⅱ-2遺跡	羽口	古代	200	北海道遺跡	墨書土器
古代	130	花前Ⅱ-2遺跡	獸脚鋳型	古代	201	北海道遺跡	墨書土器
古代	131	花前Ⅱ-2遺跡	獸脚鋳型	古代	202	白幡前遺跡	墨書土器
古代	132	永田窯跡	須恵器高台杯	古代	203	白幡前遺跡	墨書土器
古代	133	永田窯跡	須恵器コップ形杯	古代	204	白幡前遺跡	墨書土器
古代	134	永田窯跡	須恵器高台盤	古代	205	武士遺跡	口ク口土師器
古代	135	永田窯跡	須恵器蓋	古代	206	武士遺跡	口ク口土師器
古代	136	永田窯跡	須恵器杯	古代	207	武士遺跡	転用須恵器骨蔵器
古代	137	永田窯跡	須恵器杯	古代	208	林小原子台遺跡	土師器甕骨蔵器
古代	138	永田窯跡	須恵器杯	古代	209	林小原子台遺跡	土師器甕骨蔵器
古代	139	城ノ台遺跡	土師器杯	古代	210	林小原子台遺跡	土師器甕骨蔵器
古代	140	城ノ台遺跡	土師器高台付杯	古代	211	林小原子台遺跡	土師器甕骨蔵器
古代	141	城ノ台遺跡	土師器高台	古代	213	岩坂大台2号火葬墓	石櫃容器部
古代	142	城ノ台遺跡	土師器甕	古代	214	岩坂大台2号火葬墓	石櫃蓋
古代	143	城ノ台遺跡	土師器甕	古代	215	川焼台遺跡	用途不明瓦質製品(時香盤?)
古代	144	北下遺跡	梵鐘片	古代	216	観音塚遺跡	刻書管玉
古代	145	北下遺跡	梵鐘片	中近世	1	下ノ坊遺跡B地点	青磁碗
古代	146	北下遺跡	梵鐘片	中近世	2	下ノ坊遺跡B地点	カワラケ
古代	147	北下遺跡	溶解炉片	中近世	3	下ノ坊遺跡B地点	カワラケ
古代	148	北下遺跡	梵鐘座鋳型	中近世	4	下ノ坊遺跡B地点	カワラケ
古代	149	北下遺跡	梵鐘鋳型	中近世	5	下ノ坊遺跡B地点	青磁碗
古代	150	北下遺跡	墨書土器	中近世	6	下ノ坊遺跡B地点	青磁碗
古代	151	北下遺跡	緑釉陶器	中近世	7	下ノ坊遺跡B地点	青磁碗
古代	152	北下遺跡	文字瓦	中近世	8	下ノ坊遺跡B地点	青磁碗
古代	153	北下遺跡	埴	中近世	9	下ノ坊遺跡B地点	常滑産甕
古代	154	北下遺跡	軒丸瓦	中近世	10	下ノ坊遺跡B地点	常滑産甕
古代	155	北下遺跡	軒平瓦	中近世	11	下ノ坊遺跡B地点	常滑産甕
古代	156	北下遺跡	軒丸瓦	中近世	12	笹子城跡	中国製褐釉茶入
古代	157	北下遺跡	軒平瓦	中近世	13	笹子城跡	白磁皿
古代	158	北下遺跡	軒丸瓦	中近世	14	笹子城跡	青磁
古代	159	北下遺跡	軒平瓦	中近世	15	笹子城跡	染付
古代	160	北下遺跡	軒丸瓦	中近世	16	笹子城跡	染付
古代	161	北下遺跡	軒丸瓦	中近世	17	笹子城跡	瀬戸美濃産灰釉皿
古代	162	北下遺跡	軒平瓦	中近世	18	笹子城跡	瀬戸美濃産香炉
古代	163	北下遺跡	軒丸瓦	中近世	19	笹子城跡	瓦質香炉
古代	164	北下遺跡	軒平瓦	中近世	20	笹子城跡	水晶製五輪塔

時代	展示番号	遺跡名	資料名称	時代	展示番号	遺跡名	資料名称
中近世	21	笹子城跡	硯	中近世	92	遠山3号塚	祥符元寶
中近世	22	笹子城跡	硯	中近世	93	遠山3号塚	景祐元寶
中近世	23	笹子城跡	独鈷杵	中近世	94	遠山3号塚	皇宋通寶
中近世	24	笹子城跡	銅製分銅	中近世	95	遠山3号塚	熙寧元寶
中近世	25	松虫陣屋跡	土器播り鉢	中近世	96	遠山3号塚	永樂通寶
中近世	26	松虫陣屋跡	内耳土器	中近世	97	遠山3号塚	洪武通寶(背治)
中近世	27	小林城跡	土師質土器	中近世	98	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	28	小林城跡	土師質土器	中近世	99	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	29	小林城跡	カワラケ	中近世	100	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	30	小林城跡	カワラケ	中近世	101	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	31	小林城跡	カワラケ	中近世	102	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	32	小林城跡	瀬戸美濃産小壺	中近世	103	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	33	小林城跡	瀬戸美濃産皿	中近世	104	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	34	小林城跡	天目茶碗	中近世	105	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	35	小林城跡	瀬戸美濃産播り鉢	中近世	106	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	36	小林城跡	常滑産片口鉢	中近世	107	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	37	小林城跡	硯	中近世	108	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	38	小林城跡	茶臼	中近世	109	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	39	小林城跡	茶臼	中近世	111	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	40	小林城跡	カワラケ	中近世	112	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	41	小林城跡	瓦質火鉢	中近世	113	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	42	上本佐倉上宿遺跡	陶器浅鉢	中近世	114	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	43	上本佐倉上宿遺跡	陶器土瓶	中近世	115	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	44	上本佐倉上宿遺跡	陶器有脚灯明皿	中近世	116	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	45	上本佐倉上宿遺跡	陶器すり鉢	中近世	117	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	46	上本佐倉上宿遺跡	陶器片口鉢	中近世	118	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	47	上本佐倉上宿遺跡	陶器灯明皿	中近世	119	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	48	上本佐倉上宿遺跡	カワラケ	中近世	120	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	49	上本佐倉上宿遺跡	陶器碗	中近世	121	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	50	上本佐倉上宿遺跡	陶器灯明皿	中近世	122	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	51	上本佐倉上宿遺跡	陶器ひょうそく	中近世	123	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	52	文脇遺跡	大量埋蔵銭(レプリカ)	中近世	124	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	53	文脇遺跡	淳化元宝本銭	中近世	125	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	54	文脇遺跡	淳化元宝私鑄銭	中近世	126	遠山3号塚	寛永通寶(古)
中近世	55	文脇遺跡	淳化元宝模鑄銭	中近世	128	吉原三王遺跡	和鏡
中近世	56	文脇遺跡	淳化元宝烏銭	中近世	129	吉原三王遺跡(501号土墳墓)	和鉄
中近世	57	文脇遺跡	開元通寶本銭	中近世	130	吉原三王遺跡(501号土墳墓)	毛抜き
中近世	58	文脇遺跡	開元通寶私鑄銭	中近世	131	吉原三王遺跡(501号土墳墓)	短刀
中近世	59	文脇遺跡	開元通寶模鑄銭	中近世	132	吉原三王遺跡(501号土墳墓)	青白磁合子
中近世	60	文脇遺跡	開元通寶烏銭	中近世	133	吉原三王遺跡(501号土墳墓)	青磁碗
中近世	61	文脇遺跡	四銖半両	中近世	134	吉原三王遺跡(501号土墳墓)	青白磁皿
中近世	62	文脇遺跡	至大通寶	中近世	135	吉原三王遺跡(501号土墳墓)	銅蓋
中近世	63	文脇遺跡	皇宋通寶(楷書)	中近世	136	山崎横穴群4号址	宝篋印塔
中近世	64	文脇遺跡	元豐通寶(行書)	中近世	137	山崎横穴群4号址	宝篋印塔
中近世	65	文脇遺跡	熙寧元寶(楷書)	中近世	138	山崎横穴群4号址	宝篋印塔
中近世	66	文脇遺跡	無文銭	中近世	139	山崎横穴群4号址	和鏡
中近世	67	文脇遺跡	富壽神寶	中近世	140	中野台遺跡	五輪塔(火輪)
中近世	68	文脇遺跡	東国通寶	中近世	141	大塚1号塚	常滑産壺
中近世	69	荒久遺跡	瀬戸産緑釉小皿	中近世	142	大塚1号塚	常滑産小皿(大)
中近世	70	荒久遺跡	常滑産片口鉢	中近世	143	大塚1号塚	常滑産小皿(大)
中近世	71	荒久遺跡	内耳鍋	中近世	144	大塚1号塚	常滑産小皿
中近世	72	荒久遺跡	瀬戸産卸皿	中近世	145	大塚1号塚	常滑産小皿
中近世	73	荒久遺跡	瀬戸産卸皿	中近世	146	大塚1号塚	常滑産小皿
中近世	74	荒久遺跡	瀬戸産卸皿	中近世	147	大塚1号塚	常滑産小皿
中近世	75	荒久遺跡	瀬戸産卸皿	中近世	148	大塚1号塚	常滑産小皿
中近世	76	荒久遺跡	瀬戸産卸皿	中近世	149	大塚1号塚	常滑産小皿
中近世	77	荒久遺跡	瀬戸産卸皿	中近世	150	大塚1号塚	天聖元寶
中近世	78	荒久遺跡	瀬戸産卸皿	中近世	151	大塚1号塚	永樂通寶
中近世	79	荒久遺跡	白磁皿	中近世	152	大塚1号塚	永樂通寶
中近世	80	荒久遺跡	瀬戸産卸皿	中近世	153	大塚1号塚	元豐通寶
中近世	81	荒久遺跡	カワラケ	中近世	154	大塚1号塚	熙寧元寶
中近世	82	荒久遺跡	カワラケ	中近世	155	大塚1号塚	寛永通寶(古)
中近世	83	荒久遺跡	カワラケ	中近世	156	廿五里城跡	常滑産大壺
中近世	84	荒久遺跡	カワラケ	中近世	157	廿五里城跡	骨蔵器
中近世	85	荒久遺跡	カワラケ	中近世	158	廿五里城跡	墨書土器
中近世	86	荒久遺跡	常滑産片口鉢	中近世	159	草刈六之台遺跡	板碑
中近世	87	荒久遺跡	瀬戸産灰釉三足盤				
中近世	88	遠山3号塚	有田産磁器瓶				
中近世	89	遠山3号塚	熙寧元寶				
中近世	90	遠山3号塚	至道元寶				
中近世	91	遠山3号塚	至道元寶				

図版出典一覧

出典	図版番号	出典	図版番号
『千葉ニュータウンIII 大塚塚群』1974 都市公社（房総のむら所蔵）	6_27	『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書 1 流山市市野谷宮尻遺跡』2006 第 545 集	4_35
『東寺山石神遺跡』1977 第 5 集（房総のむら所蔵）	4_13 / 4_14	『千原台ニュータウン 19 市原市草刈遺跡（J 区）』2007 第 581 集	4_37 / 4_38
『千葉県我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書 千葉県立湖北高等学校建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1980 第 24 集	5_13	『東京外かく環状道路埋蔵文化財調査報告書 3 市川市北下遺跡（1）～（8）』2010 第 664 集	5_37 右 / 5_37 左 / 5_38
『公津原 2 本文編』1981 第 37 集（房総のむら所蔵）	5_23	『東京外かく環状道路埋蔵文化財調査報告書 6 市川市北下遺跡（9）～（12）』2014 第 730 集	5_40
『茂原市山崎横穴群』1982 第 43 集（房総のむら所蔵）	6_24	『袖ヶ浦市文脇遺跡（中・近世編）主要地方道千葉鴨川線（袖ヶ浦市高谷）県単道路改良事業埋蔵文化財発掘調査報告書 1』2017 県 19	6_31 / 6_32 / 6_33 下 / 6_33 上 / 6_35
『千葉東南部ニュータウン 12 南二重堀遺跡』1983 第 56 集	4_27	『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書 35 多古町五反田清水沢遺跡（1）』2019 第 777 集	4_33
『富津市岩坂大台遺跡』1983 第 55 集	5_49 下 / 5_49 上	公益財団法人千葉県教育振興財団 2024 『50 年のあゆみ 公益財団法人千葉県教育振興財団設立 50 周年記念誌』	4_2 / 5_12 上
『船橋市八木ヶ谷遺跡（遠山塚群）千葉県立船橋地区高校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1984 第 83 集	6_28 / 6_29	印西市所蔵	5_21
『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書 3 花前 II -1・花前 II -2・矢船』1985 第 87 集	5_27 下	佐藤喜一郎氏提供	5_28
『千葉都市モノレール関係埋蔵文化財発掘調査報告書 五味ノ木遺跡・殿山堀込遺跡・廿五里城跡・根崎遺跡・京願台遺跡・柳沢遺跡』1986 第 107 集	6_22 / 6_23	財団作成	4_10 / 4_19 / 4_34 / 4_42 / 4_43 / 5_3 / 5_6 / 5_8 / 5_12 下 / 5_18 / 5_34 / 5_36 / 5_41 / 5_42 右 / 5_42 左 / 5_42 中 / 5_43 / 5_44 / 6_2 / 6_34 / 6_7
『多古工業団地内遺跡群発掘調査報告書 林小原子台・栗根・土持台・林中ノ台・吹入台』1986 第 102 集	5_50 右	財団作成（写真は中村一郎氏撮影、芝山町はにわ博物館所蔵）	4_20 / 4_21 / 4_22
『多古工業団地内遺跡群発掘調査報告書 林小原子台・栗根・土持台・林中ノ台・吹入台』1986 第 102 集（房総のむら所蔵）	5_50 左下 / 5_50 左上	財団作成（写真は文化遺産オンラインより）	5_17
『安房郡鋸南町下ノ坊遺跡 B 地点発掘調査報告書 鋸南道路建設に埋蔵文化財発掘調査報告』1990 第 181 集（房総のむら所蔵）	6_3 / 6_5 / 6_6	財団作成（遺物写真は財団撮影、梵鐘は文化遺産オンラインより）	5_39
『千葉東南部ニュータウン 17 高沢遺跡』1990 第 175 集	5_7	財団撮影	4_3 / 4_26 / 4_28 / 4_30 / 4_32 / 4_40 / 4_41 / 5_10 / 5_11 下 / 5_11 上 / 5_15 / 5_16 / 5_20 / 5_24 / 5_25 / 5_26 下 / 5_26 上 / 5_47 右下 / 5_47 右上 / 5_47 左下 / 5_47 左上 / 6_13 / 6_19 / 6_26 / 6_4 下 / 6_4 上
『東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書 5 佐原地区 2 佐原市吉原三王遺跡』1990 第 178 集	5_45 / 6_25	歴博所蔵	4_11
『市原市永田窪跡群発掘調査報告書』1993 第 238 集	5_31 / 5_32	千葉県所蔵	4_9
『主要地方道成田安食線地方道道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 2 成田市上福田和台谷津遺跡・上福田保町遺跡・仲兵衛遺跡・下福田稲荷原遺跡・上福田 13 号墳・松崎掃磨遺跡・烏内遺跡』1993 第 229 集（房総のむら所蔵）	4_17 / 4_18	中村一郎氏撮影、芝山町はにわ博物館所蔵	4_23
『滝ノ口向台遺跡・大作古墳群 第 1 分冊 一般県道君津平川線県単道路改良（幹線道路網整備）工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』1993 第 232 集	4_4 / 4_5 下 / 4_5 上	八千代市所蔵	5_46
『印西町小林城跡 一般県道印西印施線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』1994 第 250 集	6_8 / 6_9 / 6_10 / 6_11 右 / 6_11 左	房総のむら所蔵	4_16 / 4_24 / 4_25 / 4_31 / 4_39 / 4_49 / 5_1 下 / 5_51 下 / 5_51 上
『千原台ニュータウン 6 第 1 分冊 草刈六之台遺跡』1994 第 241 集	6_30	財団所蔵	4_12 / 4_15 / 4_29 / 4_36 下 / 4_36 上 / 4_8
『一般国道 296 号国道道路改良事業埋蔵文化財調査報告書 3 酒々井町上本佐倉上宿遺跡』1997 第 298 集（酒々井町所蔵）	6_20	Colbase より	5_2 下 / 5_4 / 6_21 / 6_36
『市原市武士遺跡 1 第 1 分冊 福増浄水場埋蔵文化財調査報告書』1997 第 289 集	5_48	文化遺産オンラインより	5_2 上
『千原台ニュータウン 7 草刈 1 号墳』1997 第 295 集	4_7 下 / 4_7 上		
『袖ヶ浦市荒久（2）遺跡 主要地方道千葉鴨川線埋蔵文化財調査報告書 2』1998 第 323 集（袖ヶ浦市所蔵）	6_16		
財団作成（写真は『袖ヶ浦市荒久（2）遺跡 主要地方道千葉鴨川線埋蔵文化財調査報告書 2』1998 第 323 集（袖ヶ浦市所蔵））	6_17 / 6_18		
千葉県史料研究財団 1998 『千葉県の歴史』資料編 考古 3（奈良・平安）	5_14 / 5_19 / 5_1 上 / 5_22 / 5_27 上 / 5_30 / 5_35		
財団作成（写真は『矢那川ダム埋蔵文化財調査報告書 2 木更津市久野遺跡』1999 第 364 集 木更津市所蔵）	5_29		
『千葉市観音塚遺跡・地藏山遺跡（3）都市基盤整備公団千葉寺地区埋蔵文化財発掘調査報告書 4』2004 第 472 集	5_9		
『東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書 14 木更津市笹子城跡』2004 第 486 集（木更津市所蔵）	6_1 / 6_12 / 6_14 / 6_15		
『千葉東南部ニュータウン 34 千葉市城ノ台遺跡』2006 第 539 集	5_33		
『千葉東南部ニュータウン 35 千葉市椎名崎古墳群 B 支群』2006 第 544 集	4_1		

*報告書から引用したものは、所蔵記載のないものは千葉県教育委員会所蔵

参考文献

古墳時代

- 加藤正信・小林清隆・山口典子 1992 「3. 古墳時代の玉作」『研究紀要 21』財団法人千葉県文化財センター
 加藤修司 2000 「第 1 章 土器編年案」『研究紀要 21』財団法人千葉県教育振興財団
 白井久美子・木原高弘 2012 「第 1 章 集落出土土器等の様相」『研究紀要 27』財団法人千葉県教育振興財団
 石井友菜 2023 「房総の石製模造品について」『令和 5 年度出土遺物公開事業講演会資料』財団法人千葉県教育振興財団

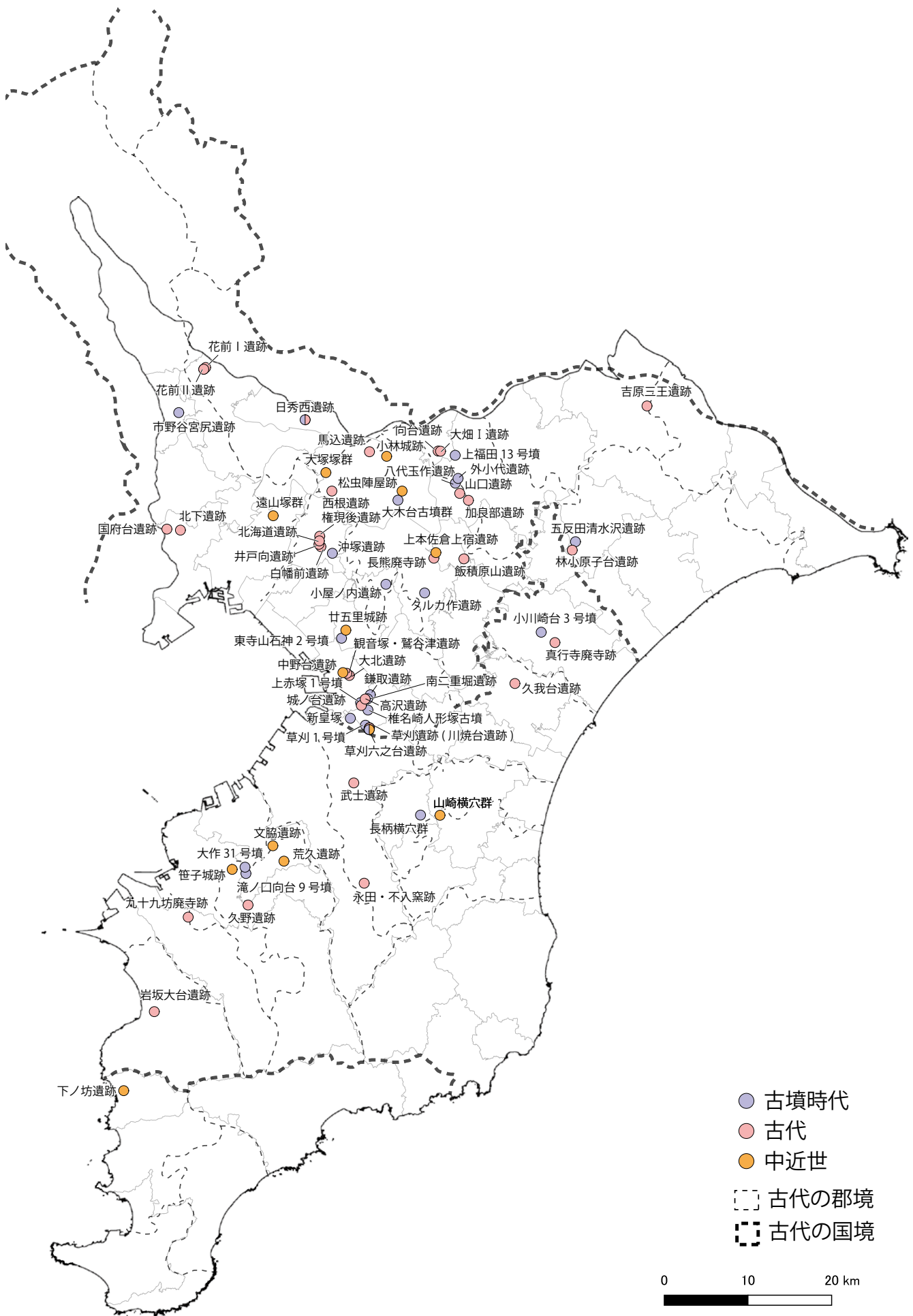
古代

- 房総歴史考古学研究会 1987 『房総における歴史時代土器の研究』
 栗田則久 1991 「第 4 節 墨書土器の検討」『八千代市白幡前遺跡—萱田地区埋蔵文化財調査報告書 V—』財団法人千葉県文化財センター第 188 集
 房総考古学ライブラリー 7 『歴史時代』(1) 1993 (財) 千葉県文化財センター
 萩原恭一 1995 「房総半島の古代集落遺跡に見る人口動態」『研究紀要 16』財団法人千葉県教育振興財団
 『千葉の歴史』資料編 考古 3（奈良・平安）1998 千葉県
 『千葉の歴史』通史編 古代 2 2001 千葉県
 『千葉の歴史』資料編 考古 4（遺跡・遺構・遺物）2004 千葉県

中近世

- 『千葉県の歴史』資料編 中世 1（考古資料）1998 千葉県
 房総考古学ライブラリー 8 『歴史時代』(2) 1994 (財) 千葉県文化財センター
 『中世の安房と鎌倉—海で結ばれた信仰の道— 2012 館山市立博物館

展示遺物出土遺跡



-
- 発行日：令和7年8月29日
 - 編集・発行：公益財団法人千葉県教育振興財団 〒284-0003 四街道市鹿渡809-2
 - 印刷：株式会社エリート情報社

令和7年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(地域の特色ある埋蔵文化財活用事業)の交付を受けて実施しています。

